

---

平成28年度  
福岡市高齢者実態調査  
報告書  
【概要版】

---

平成29年3月  
福岡市 保健福祉局



# < 目 次 >

## I 調査概要

1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の概要 .....	1
3. 回収の結果 .....	1
4. 資料の見方 .....	2

## II 調査結果

### 第1章 高齢者一般調査共通設問

1. 回答者の属性 .....	3
2. 世帯状況 .....	4

### 第2章 高齢者一般調査A

1. 日常生活 .....	5
(1) 外出 .....	5
(2) 近所付き合い .....	6
(3) 孤立死 .....	7
(4) 災害時や緊急時 .....	8
2. 生きがい・社会活動 .....	9
(1) 生きがいに感じること .....	9
(2) ボランティア活動 .....	10
(3) 日々の過ごし方 .....	11

### 第3章 高齢者一般調査B

1. 住まい .....	13
(1) 住居状態 .....	13
(2) 住まい .....	14
2. 健康状態 .....	15
(1) 健康状態 .....	15
(2) 口腔 .....	17
(3) 健康づくりや介護予防 .....	18
(4) 認知症 .....	19
3. 医療・福祉 .....	20
(1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター） .....	20
(2) 在宅医療 .....	21
(3) 今後の介護意向 .....	22
(4) 行政への要望 .....	23

## 第4章 介護サービス調査共通設問

1. 回答者の属性	25
(1) 性別・年齢	25
(2) 要介護度	26
2. いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）	27
3. 在宅医療	28
4. 介護保険制度	30
5. 介護者	31
(1) 介護者の属性	31
(2) 介護者の就業	32
(3) 今後の介護の仕方	33

## 第5章 介護保険在宅サービス利用者調査

1. 介護保険サービスの利用	35
(1) 介護保険サービスの内容の満足度	35
(2) 介護保険サービスの利用状況	35
2. 今後どのように介護を受けたいか	36

## 第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査

1. 介護保険サービスの利用	37
(1) 在宅サービスの利用経験	37
(2) 在宅サービスを利用していない理由	38
2. 今後の介護サービスの利用	39

## 第7章 介護保険施設等サービス利用者調査

1. 施設等を希望した理由・現在の施設の満足度	41
2. 施設等を選ぶときに重視する点	42

## 第8章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性	43
2. 勤務形態・兼務内容	44
3. ケアマネジメント	45
(1) 給付管理件数	45
(2) 組み合わせた保険外サービス	45
(3) 今後充実が必要なサービス	46
4. 地域ケア会議	47
5. 行政に期待する役割	48

## I 調査概要

## 1. 調査の目的

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「福岡市介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

## 2. 調査の概要

調査種別	調査対象者	発送日	回収期限
高齢者一般調査A	平成28年10月時点で福岡市内にお住まいの60歳以上の方	平成29年 1月12日	平成29年 2月20日 郵送着まで
高齢者一般調査B	平成28年10月時点で福岡市内にお住まいの60歳以上の方		
介護保険在宅サービス利用者調査	福岡市にお住まいの要支援・要介護認定者（第2号被保険者（40～64歳）を含む）のうち、平成28年8月中に介護保険の在宅サービスを利用した方		
介護保険在宅サービス未利用者調査	福岡市にお住まいの要支援・要介護認定者（第2号被保険者（40～64歳）を含む）のうち、平成28年8月中に介護保険の在宅サービスを利用しなかった方		
介護保険施設等サービス利用者調査	平成28年8月中に福岡市内の介護保険施設・グループホームに入所・入居されていた方（第2号被保険者（40～64歳）を含む）		
介護支援専門員調査	福岡市内の居宅介護支援事業所、いきいきセンターふくおかに所属している介護支援専門員		

## 3. 回収の結果

調査種別	配付数	回収数	回収率	有効回収数※	有効回収率
高齢者一般調査A	3,000	1,899	63.3%	1,897	63.2%
高齢者一般調査B	3,000	1,886	62.9%	1,886	62.9%
介護保険在宅サービス利用者調査	3,000	1,693	56.4%	1,684	56.1%
介護保険在宅サービス未利用者調査	3,000	1,598	53.3%	1,578	52.6%
介護保険施設等サービス利用者調査	1,500	1,018	67.9%	853	56.9%
介護支援専門員調査	1,458	1,010	69.3%	1,007	69.1%

※回収された調査票から白紙のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

#### 4. 資料の見方

- 1 : 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。それに伴い、比率の合計が 100%にならない場合がある。
- 2 : 比率は各質問での「回答数（無回答を含む）」を基数（Nまたはn）として（Nまたはn =100%として）算出している。  
N = 回答全数（有効回収数に等しい）  
n = 該当数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）
- 3 : 複数回答が可能な設問においても、比率算出の基数は「回答数」とし、該当する選択肢に○印をつけた方が全体から見て何%なのかという見方をした。したがって、各選択肢の比率の合計が 100%を超える場合がある。
- 4 : 表・グラフに示す回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- 5 : グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- 6 : 2つ以上の選択肢を合計して表している比率は、各選択肢の割合を合計して算出している。
- 7 : 文中の選択肢の表記は「 」で行い、2つ以上のものを合計して表す選択肢は『 』としている。

## Ⅱ 調査結果

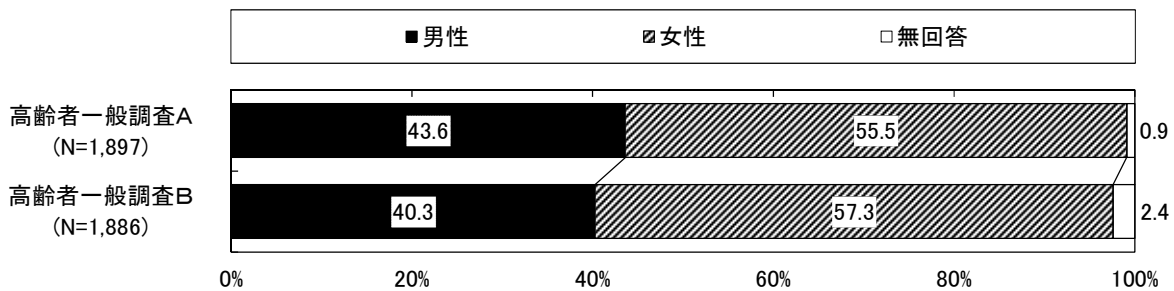
### 第1章 高齢者一般調査共通設問

「高齢者一般調査A」「高齢者一般調査B」の2つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるように「共通設問」として掲載した。

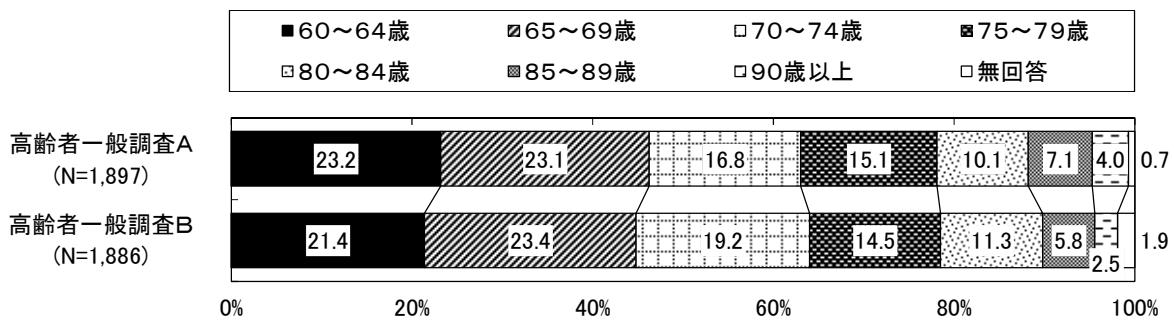
#### 1. 回答者の属性（調査A：問2・問3、調査B：問2・問3）

- ◇回答者は、調査Aでは「男性」が43.6%、「女性」が55.5%、調査Bでは「男性」が40.3%、「女性」が57.3%となっている。
- ◇『65歳以上の高齢者』は、調査Aでは76.2%、調査Bでは76.7%となっている。『75歳以上の後期高齢者』は、調査Aでは36.3%、調査Bでは34.1%となっている。

【性別】



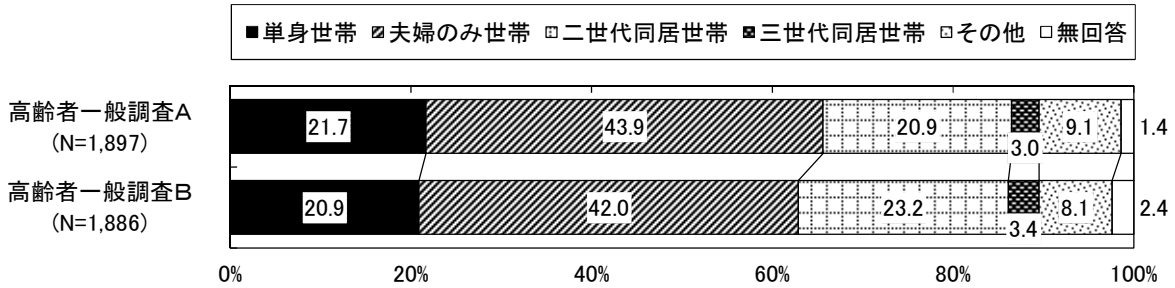
【年齢】



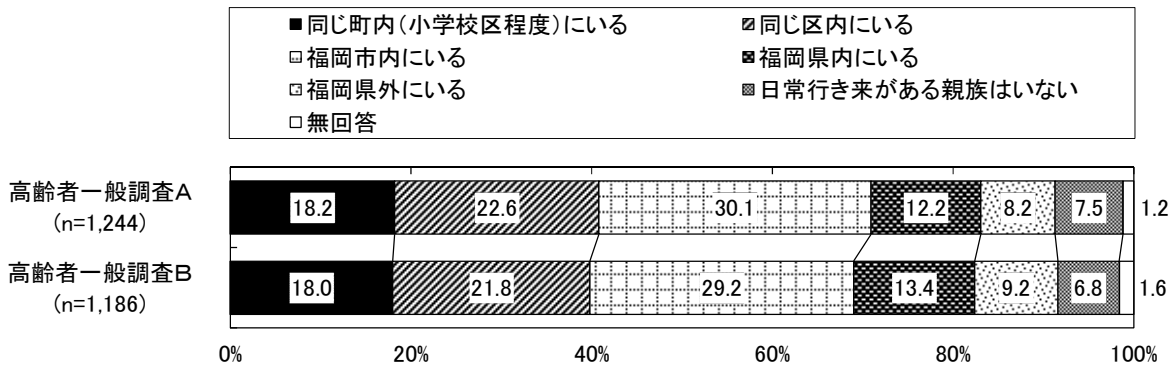
2. 世帯状況（調査A：問5・問5-1、調査B：問5・問5-1）

◇「単身世帯」は、調査Aでは21.7%、調査Bでは20.9%となっている。  
 ◇「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」のうち、日常行き来がある親族のいる場所が『福岡市内』であるのは、調査Aでは70.9%、調査Bでは69.0%となっている。

【世帯構成】



【日常行き来がある親族のいる場所】





## 第2章 高齢者一般調査A

### 1. 日常生活

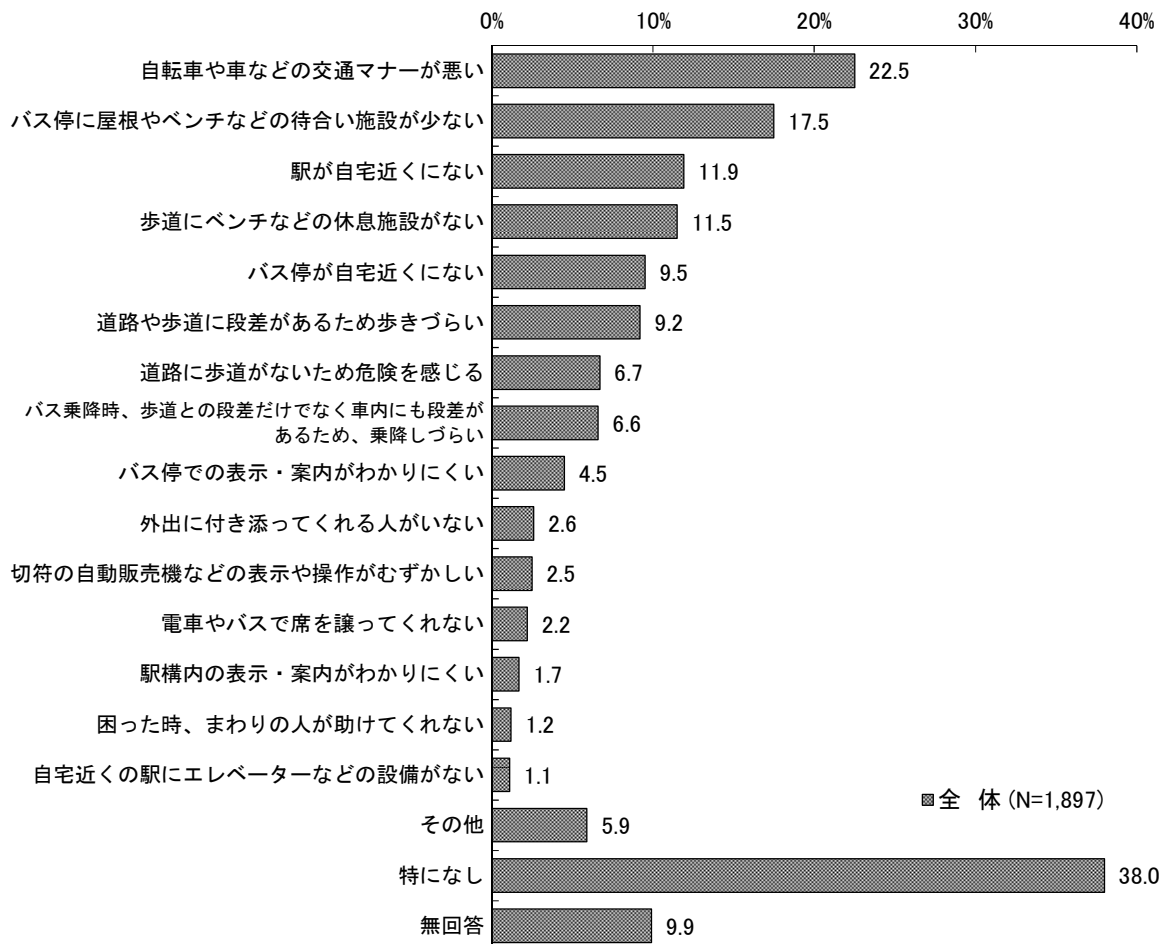
#### (1) 外出（問9・問9-2・問11）

◇週1回以上の外出状況は、「外出している」が90.1%、「ほとんど外出しない」が8.3%となっている。

◇外出しない理由としては「体の具合が悪い」が36.9%で最も高く、次いで「特に外出する用事がない」が23.6%となっている。

◇徒歩などでの外出の際に困っていることは、「自転車や車などの交通マナーが悪い」が22.5%で最も高く、次いで「バス停に屋根やベンチなどの待合い施設が少ない」が17.5%となっている。

【徒歩や公共交通機関による外出の際に困っていること】

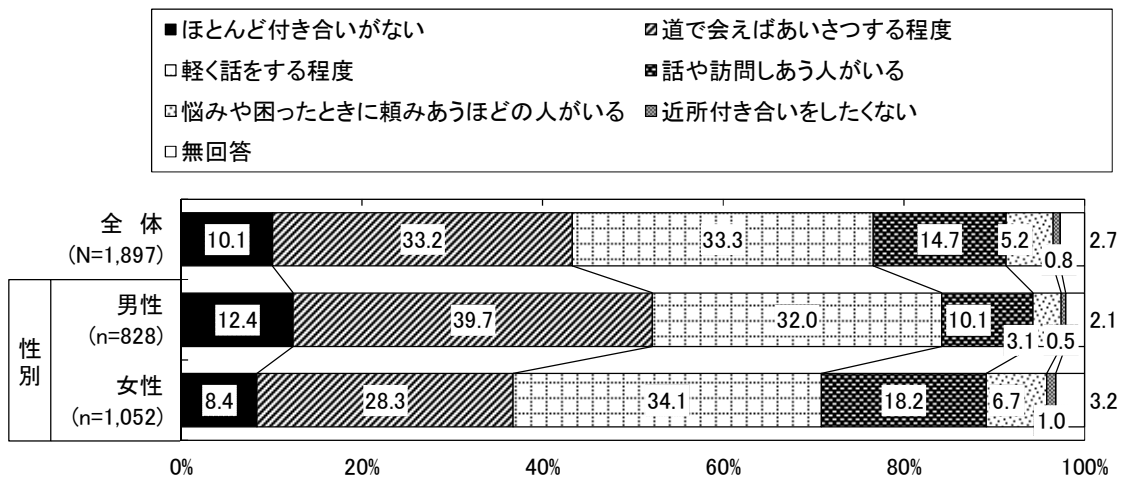


(2) 近所付き合い (問 14)

◇近所付き合いの程度は、「ほとんど付き合いがない」と「道で会えばあいさつする程度」を合わせた『近所付き合いが少ない』は 43.3%、一方、「話や訪問しあう人がいる」と「悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」を合わせた『近所付き合いが多い』は 19.9%となっている。

◇『近所付き合いが少ない』は男性で 52.1%、女性で 36.7%となっていて、男性は女性よりも『近所付き合いが少ない』の割合が高い。

【近所付き合いの程度 (性別)】



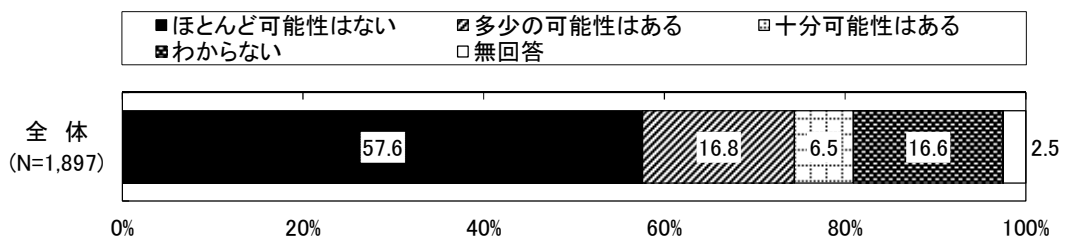
(3) 孤立死 (問 15・問 15-1・問 16)

◇孤立死する可能性の認識は、「ほとんど可能性はない」が57.6%、「多少の可能性はある」と「十分可能性はある」を合わせた『可能性はある』が23.3%となっている。ただし、単身世帯に限ると、『可能性はある』が58.2%となっている。

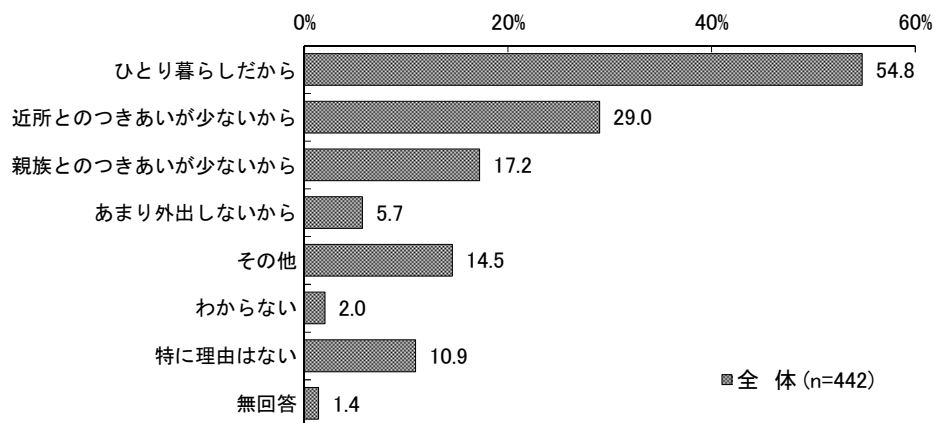
◇孤立死する可能性のある理由としては「ひとり暮らしだから」が54.8%で最も高く、次いで「近所とのつきあいが少ないから」が29.0%となっている。

◇孤立死防止策として必要なことは、「行政が提供する福祉サービス」が40.3%で最も高く、次いで「ご近所の見守り」が34.6%となっている。

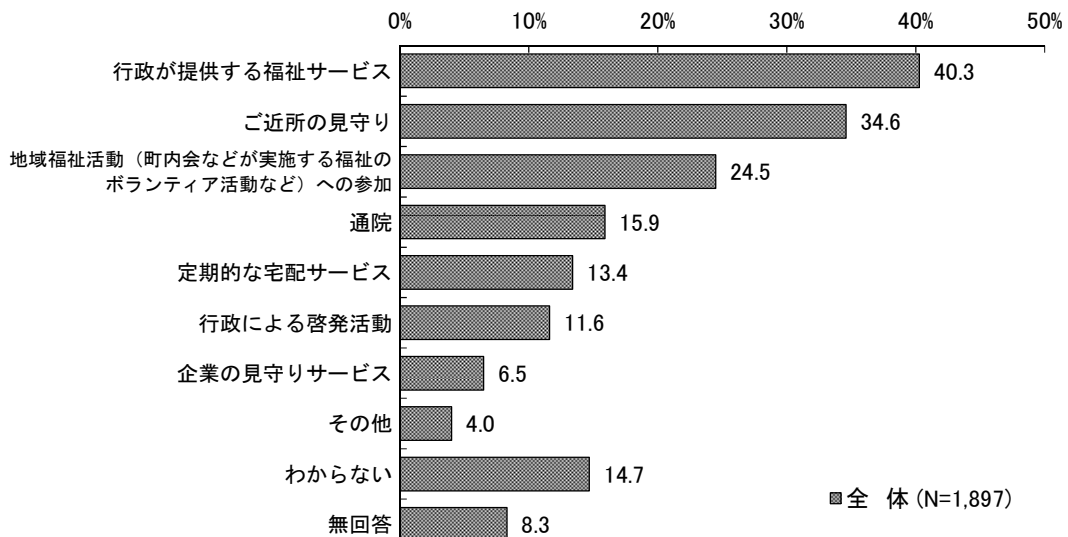
【孤立死する可能性の認識】



【孤立死する可能性のある理由】



【孤立死防止策として必要なこと】



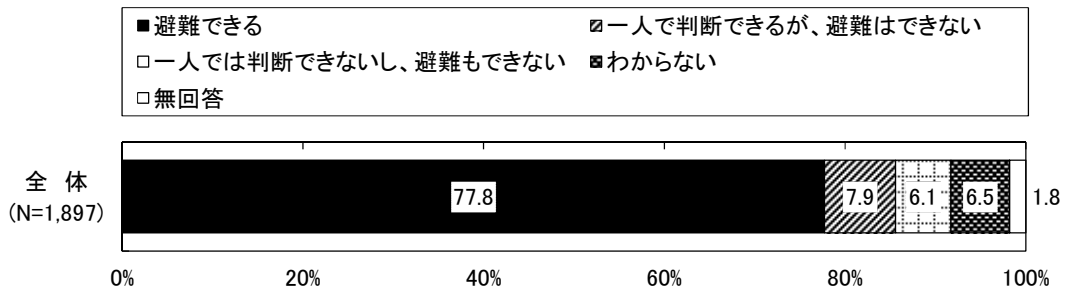
(4) 災害時や緊急時（問 19・問 20・問 21）

◇災害時や緊急時における一人での避難は、「避難できる」が 77.8%、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人では判断できないし、避難もできない」を合わせた『避難できない』が 14.0%となっている。

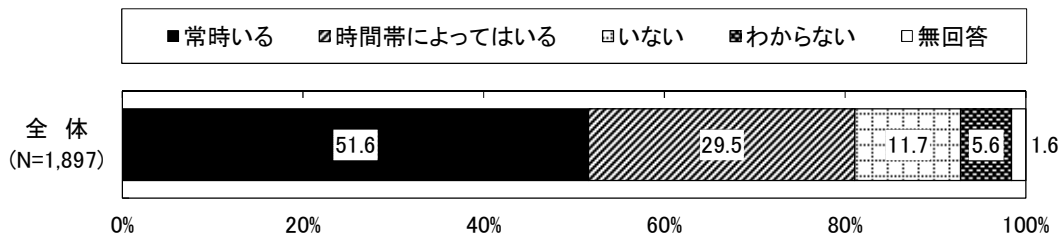
◇災害時や緊急時に手助けを頼める人は、「常時いる」が 51.6%、「いない」が 11.7%となっている。単身世帯では、「いない」が 36.2%で、他の世帯構成に比べ高くなっている。

◇災害時の心配事や問題点は、「避難所での生活が不安」が 52.7%で最も高く、次いで「情報をうまく入手できない」が 25.2%となっている。

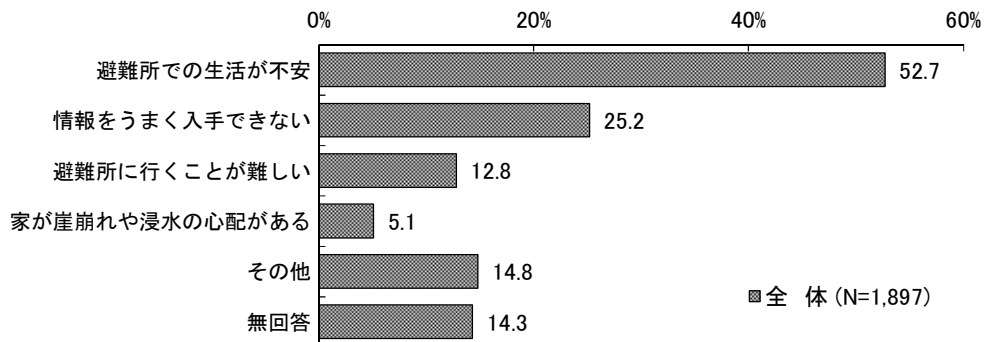
【災害時や緊急時における一人での避難】



【災害時や緊急時に手助けを頼める人の状況】



【災害時の心配事や問題点の内容】

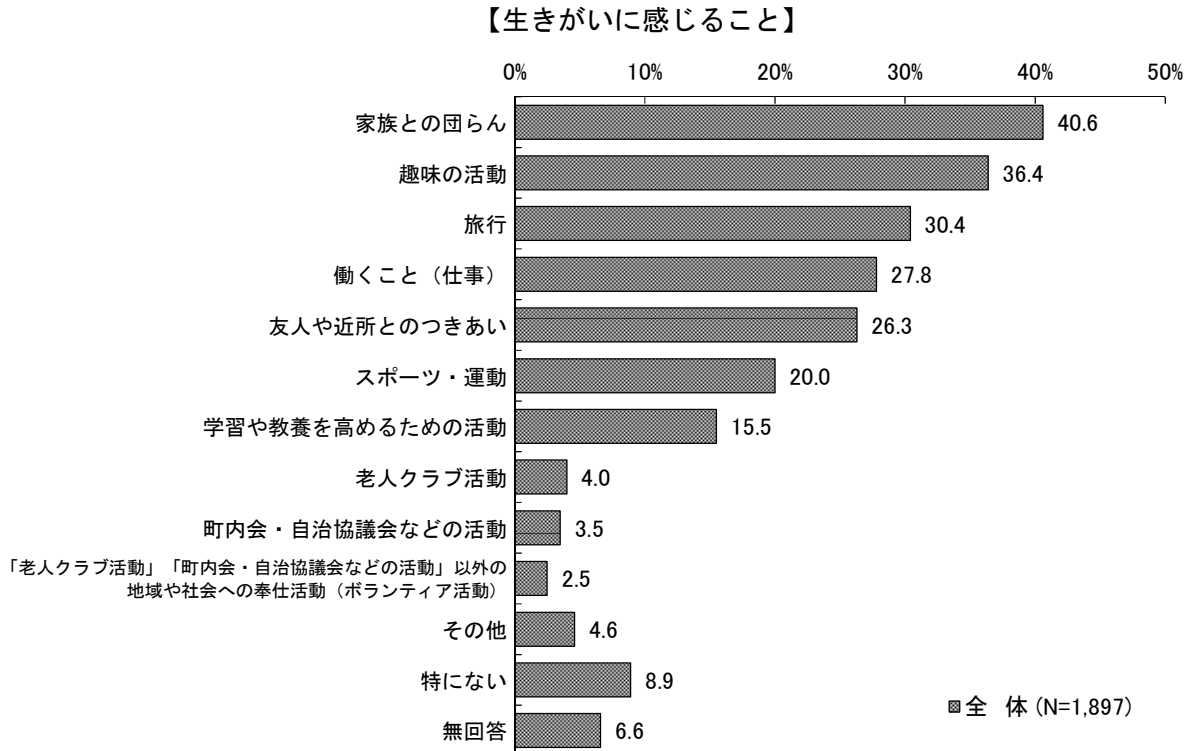


2. 生きがい・社会活動

(1) 生きがいに感じること (問25)

◇生きがいに感じることは、「家族との団らん」が40.6%で最も高く、次いで「趣味の活動」が36.4%、「旅行」が30.4%となっている。

◇男性の上位3位は「趣味の活動」「家族との団らん」「働くこと(仕事)」、女性の上位3位は「家族との団らん」「趣味の活動」「友人や近所とのつきあい」となっている。



(2) ボランティア活動（問 23・問 23-4・問 23-6・問 23-13）

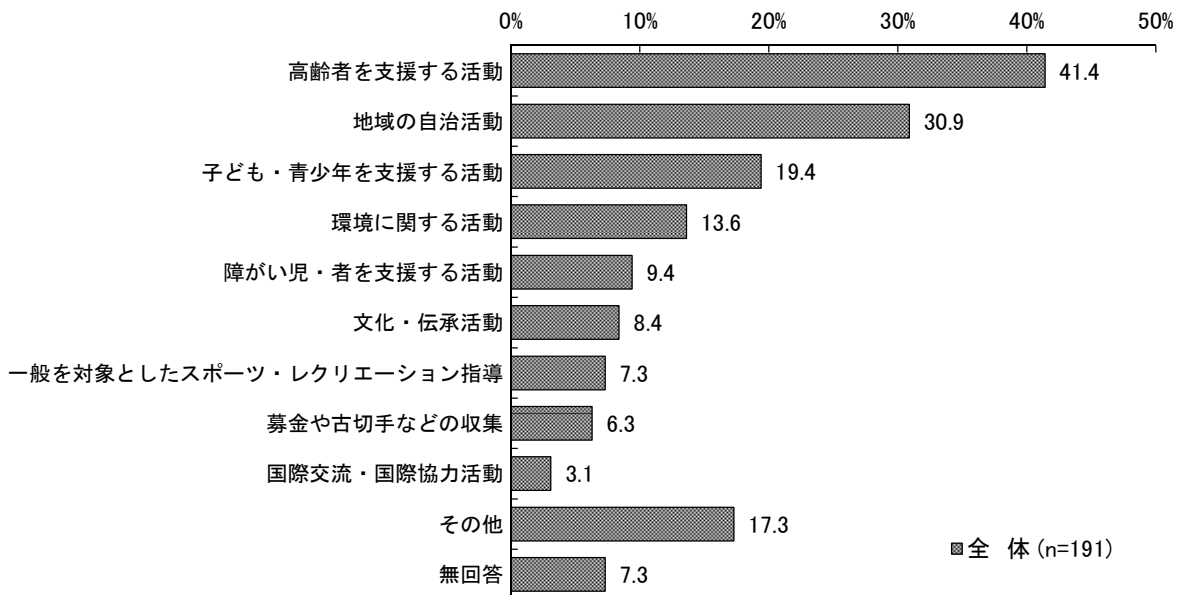
◇ボランティア活動の参加は、「現在活動している」が 10.1%、「活動していない」が 87.1%となっている。

◇ボランティア活動の参加内容としては「高齢者を支援する活動」が 41.4%で最も高く、次いで「地域の自治活動」が 30.9%、「子ども・青少年を支援する活動」が 19.4%となっている。

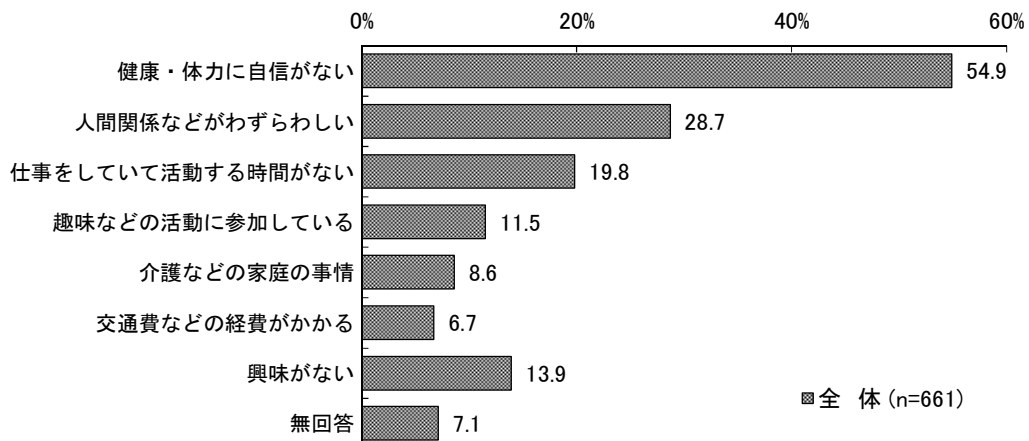
◇ボランティア活動をしていない人のうち、「積極的にやりたいと思っている」と「機会があればやりたいと思っている」を合わせた『参加したい』が 27.7%、「あまりやりたいとは思わない」と「やりたいとは思わない」を合わせた『やりたいとは思わない』が 40.0%となっている。

◇『やりたいとは思わない』と回答した人が挙げたその理由としては「健康・体力に自信がない」が 54.9%で最も高く、次いで「人間関係などがわずらわしい」が 28.7%となっている。

【ボランティア活動の内容】



【ボランティア活動に参加希望しない理由】

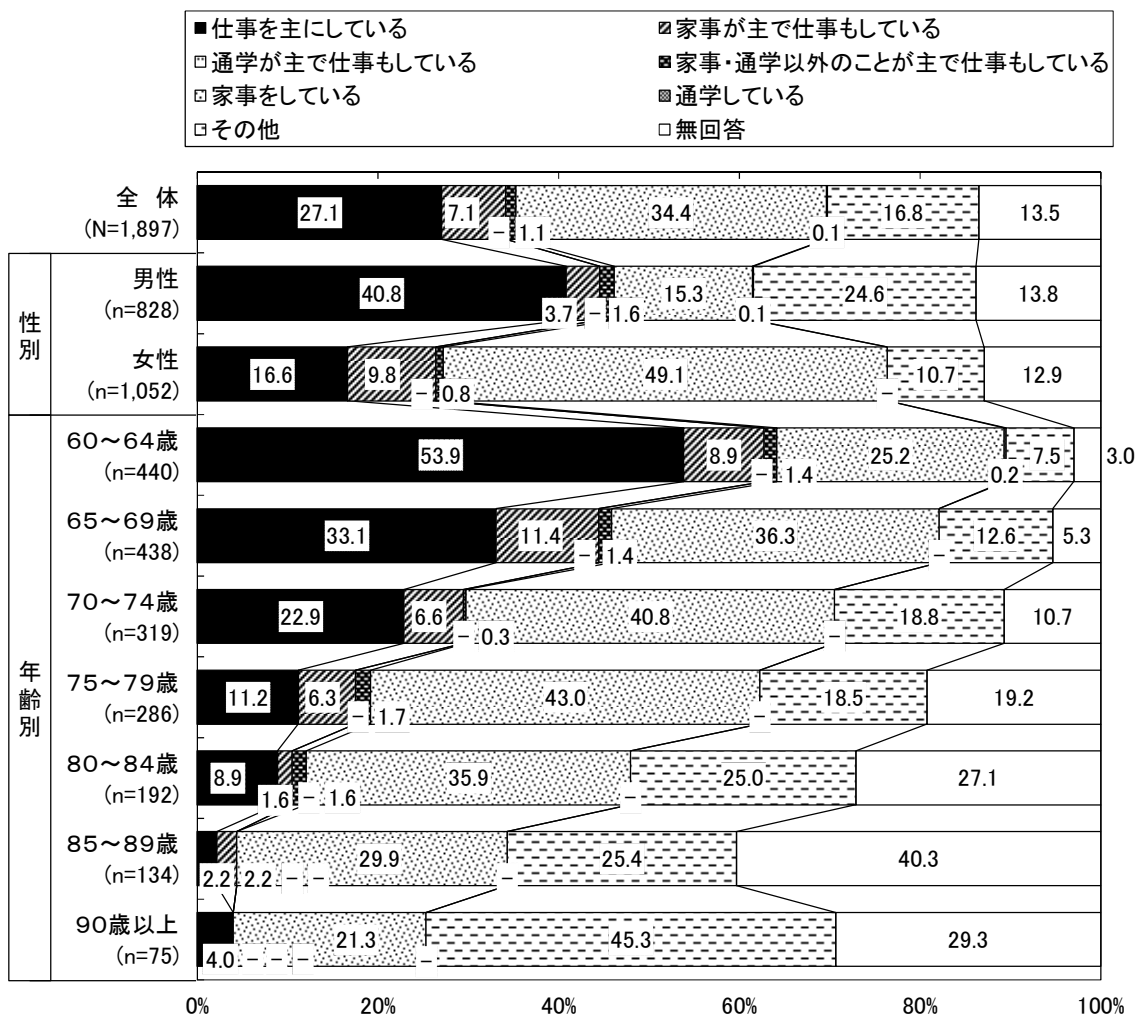


(3) 日々の過ごし方 (問 28)

◇日々の過ごし方は、「家事をしている」が34.4%で最も高く、次いで「仕事を主にしている」が27.1%となっている。男性では「仕事を主にしている」が40.8%で最も高く、女性では「家事をしている」が49.1%で最も高くなっている。

◇「仕事を主にしている」と回答した人を年齢別にみると、60～64歳で53.9%、65～69歳で33.1%、70～74歳で22.9%、75～79歳で11.2%、80～84歳で8.9%、85～89歳で2.2%、90歳以上で4.0%となっている。

【日々の過ごし方 (性別・年齢別)】







### 第3章 高齢者一般調査B

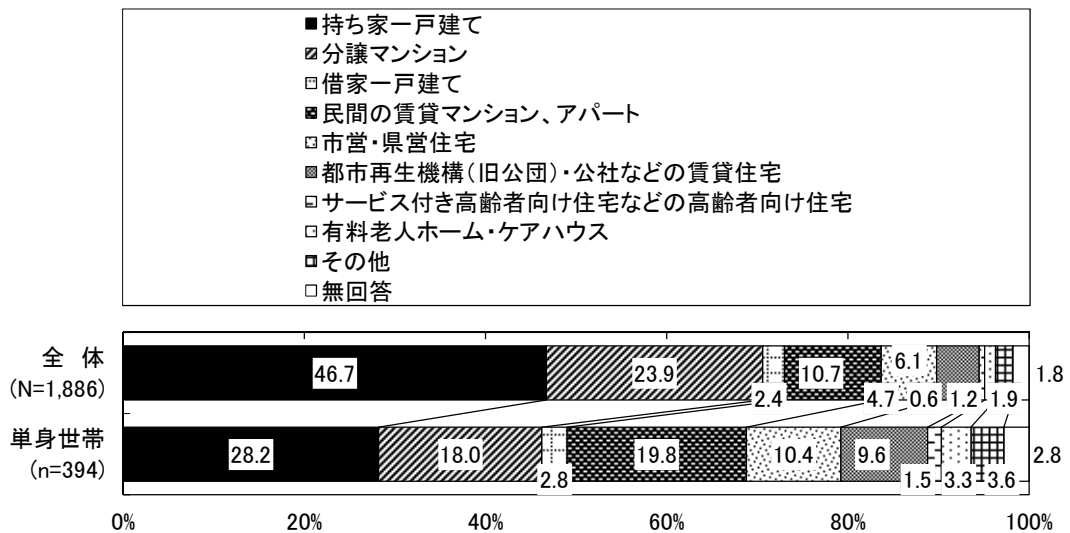
#### 1. 住まい

##### (1) 住居状態 (問8・問8-1)

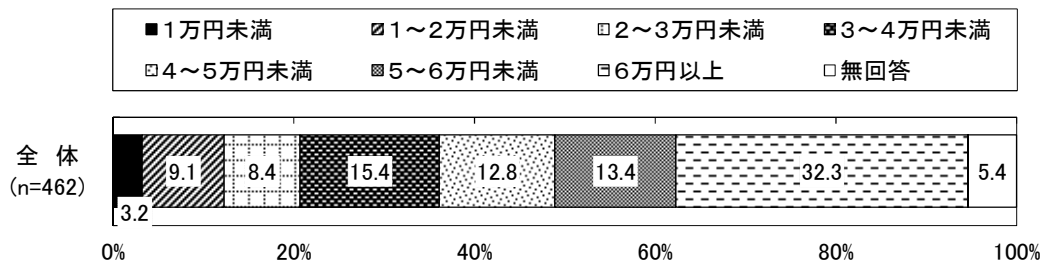
◇住居形態は、「持ち家一戸建て」が46.7%で最も高く、次いで「分譲マンション」が23.9%となっていて、これらを合わせた『持ち家』が70.6%となっている。ただし単身世帯に限ると『持ち家』が46.2%となっている。

◇「借家一戸建て」「民間の賃貸マンション、アパート」「市営・県営住宅」「都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」を合わせた『賃貸住宅』に住んでいる人の1か月の家賃は、「6万円以上」が32.3%で最も高く、次いで「3～4万円未満」が15.4%、「5～6万円未満」が13.4%となっている。

【住居形態】



【住まいの1か月の家賃】



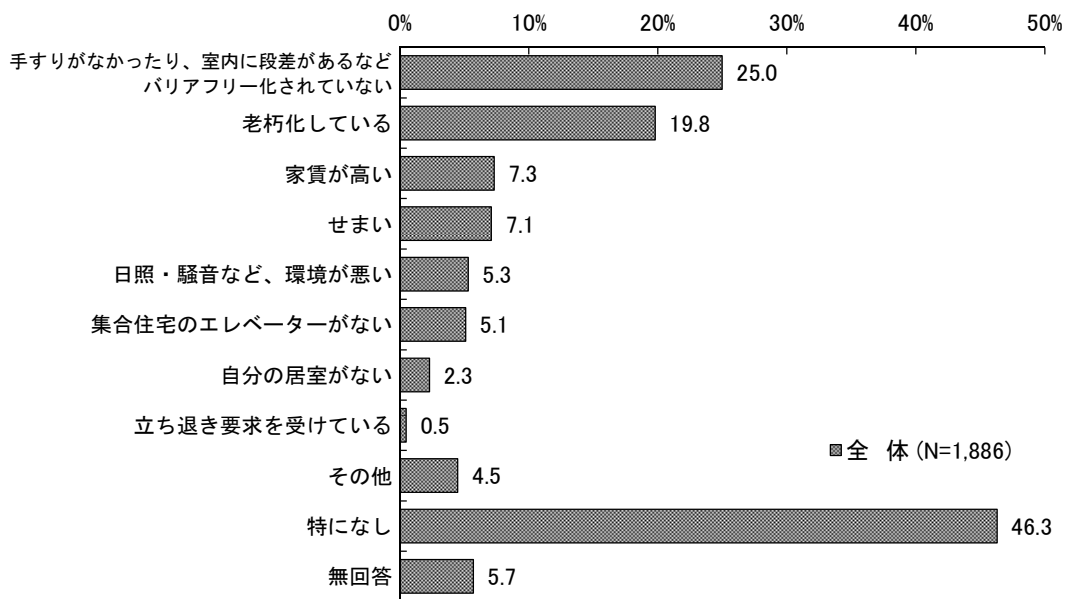
(2) 住まい（問 9・問 10・問 10-1）

◇現在の住まいで困っていることは、「特になし」が 46.3%で最も高くなっていて、半数近くは今のところ住居に不便を感じていない。困っていることは、「手すりになかったり、室内に段差があるなどバリアフリー化されていない」が 25.0%で最も高く、次いで「老朽化している」が 19.8%となっている。

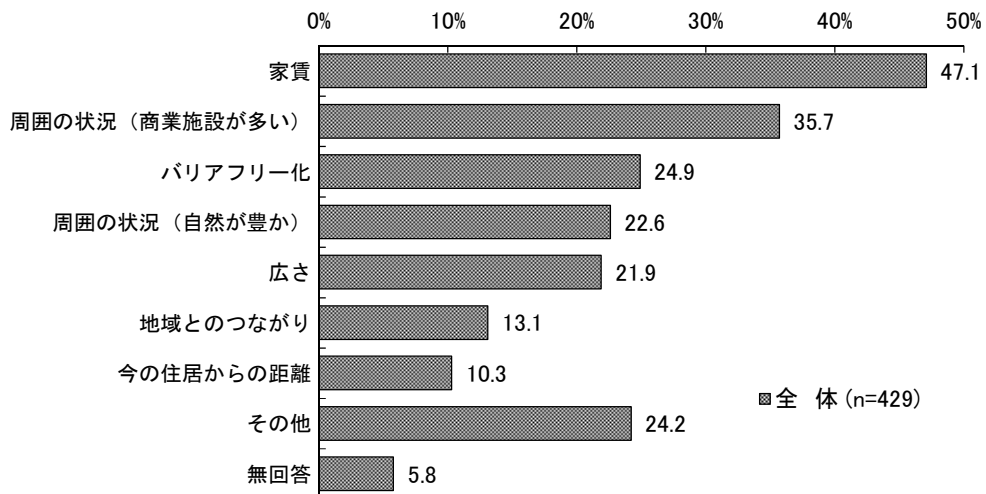
◇現在の住まいが終の棲家と「考えている」が 73.8%、「考えていない」が 22.7%となっている。

◇終の棲家と考えていない人が住み替え時に重視することは、「家賃」が 47.1%で最も高く、次いで「周囲の状況（商業施設が多い）」が 35.7%となっている。

【住まいで困っていること】



【住み替え時に重視すること】



2. 健康状態

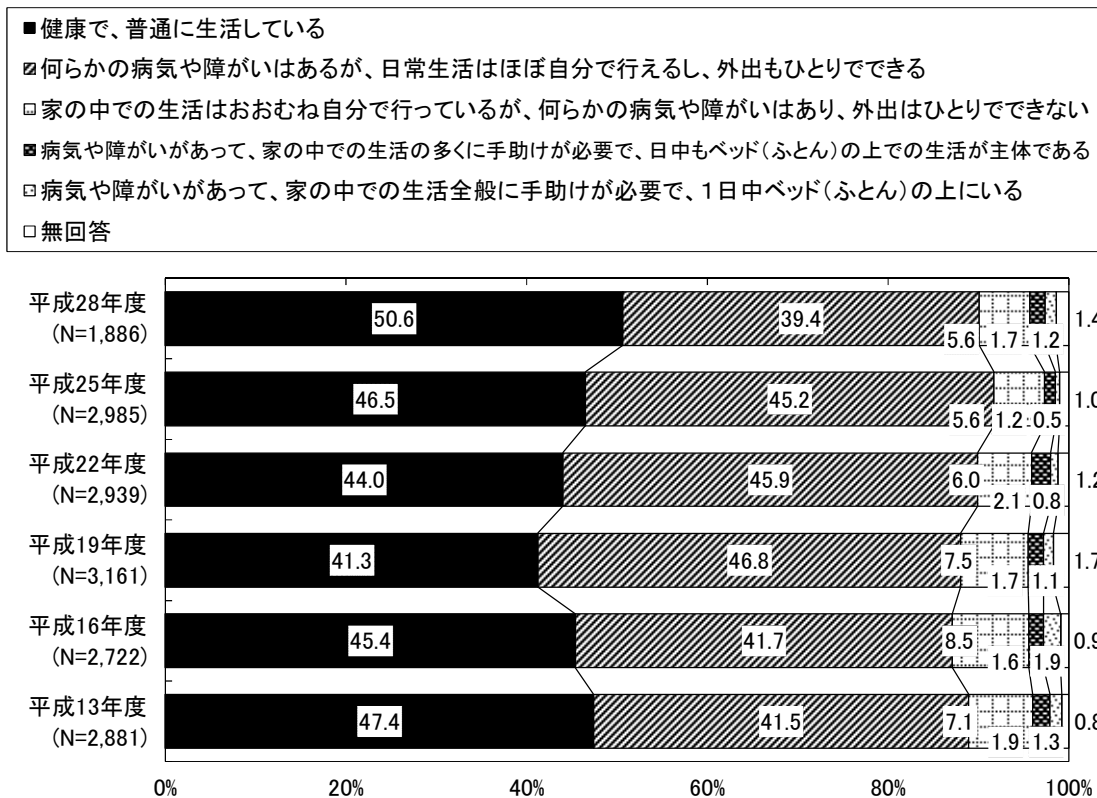
(1) 健康状態 (問12)

◇現在の健康状態は、「健康で、普通に生活している」の50.6%、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりで行える」の39.4%を合わせた『自立した生活をしている』が90.0%となっている。

◇過去の調査結果と比較すると、「健康で、普通に生活している」は平成13年度以降で最も高くなっている。

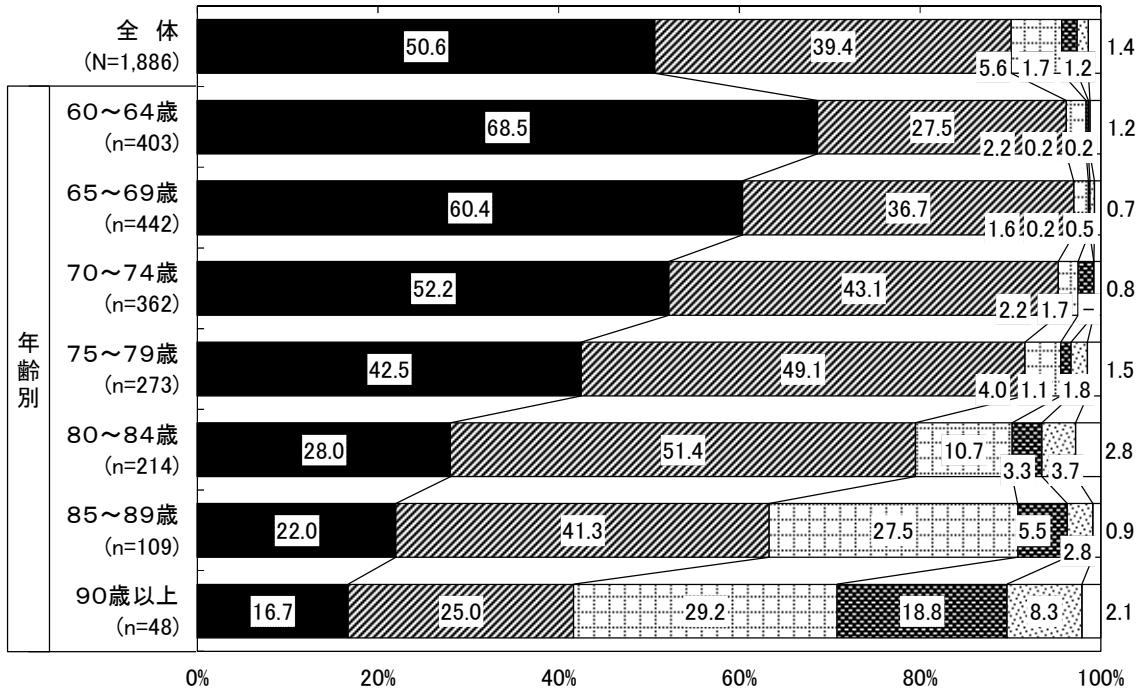
◇年齢別にみると、『自立した生活をしている』は79歳以下では9割以上、80～84歳では約8割、85～89歳では約6割、90歳以上では約4割となっている。

【現在の健康状態 (経年比較)】



【現在の健康状態（年齢別）】

- 健康で、普通に生活している
- ▨何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりできる
- 家の中での生活はおおむね自分で行っているが、何らかの病気や障がいがあり、外出はひとりできない
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活の多くに手助けが必要で、日中もベッド(ふとん)の上での生活が主体である
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活全般に手助けが必要で、1日中ベッド(ふとん)の上にいる
- 無回答



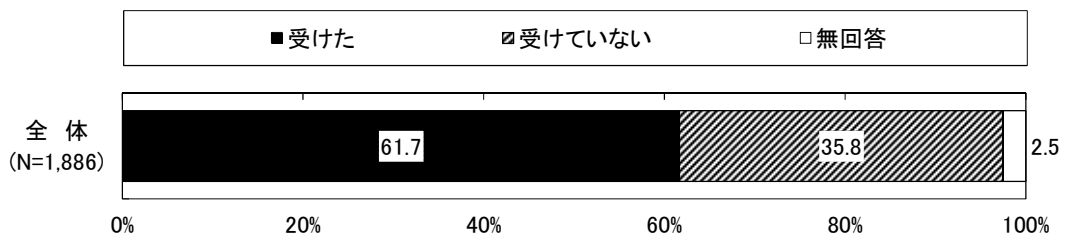
(2) 口腔 (問13・問14・問18)

◇過去1年間の歯科定期検診の受診は、「受けた」が61.7%、「受けていない」が35.8%となっている。

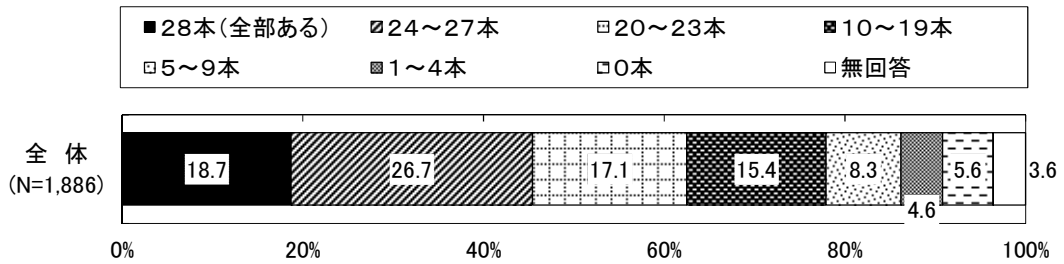
◇歯の本数(さし歯を含む)は、「24~27本」が26.7%で最も高く、次いで「28本(全部ある)」が18.7%、「20~23本」が17.1%となっている。

◇歯みがきの頻度は、「1日2回」が46.2%で最も高く、次いで「1日3回以上」が24.8%、「1日1回」が22.4%となっている。

【歯科の定期健診受診の有無】



【歯の本数】



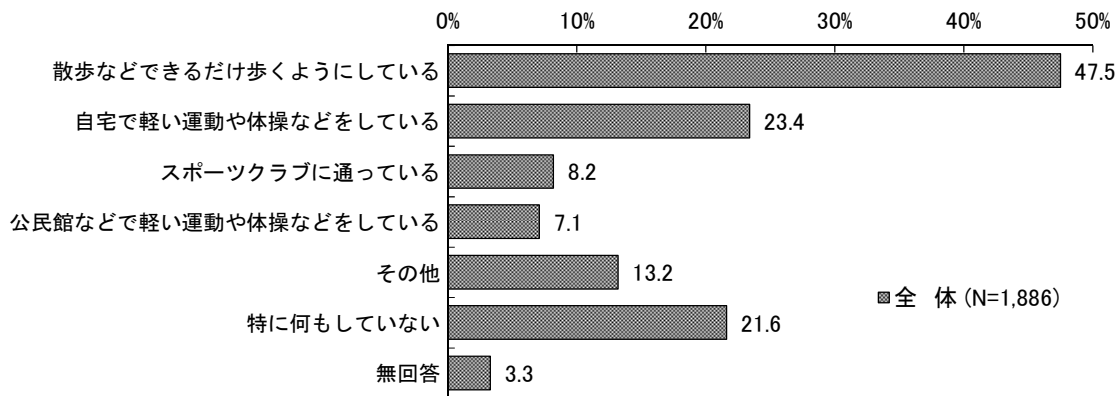
(3) 健康づくりや介護予防 (問 20・20-3・問 22)

◇運動習慣の状況は、「散歩などできるだけ歩くようにしている」が 47.5%で最も高く、次いで「自宅で軽い運動や体操などを行っている」が 23.4%、「特に何もしていない」が 21.6%となっている。

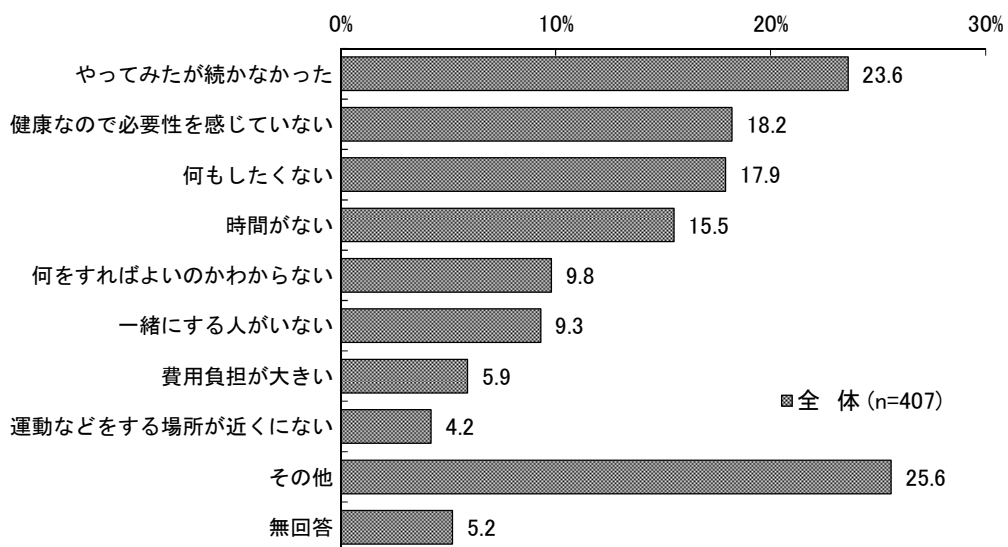
◇運動を特に何もしていない理由としては「やってみたが続かなかった」が 23.6%で最も高く、次いで「健康なので必要性を感じていない」が 18.2%、「何もしたくない」が 17.9%となっている。

◇介護予防として福岡市に力を入れてほしいことは、「認知症予防についての取り組み」が 46.2%で最も高く、次いで「体力や筋力の維持・向上のための取り組み」が 37.6%、「生きがいづくりのための取り組み」が 36.9%となっている。

【運動習慣の状況】



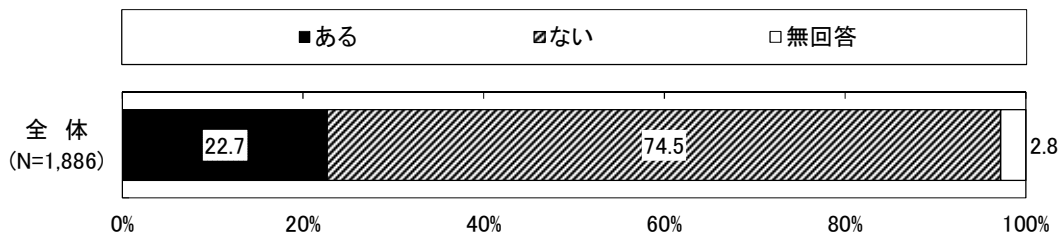
【運動していない理由】



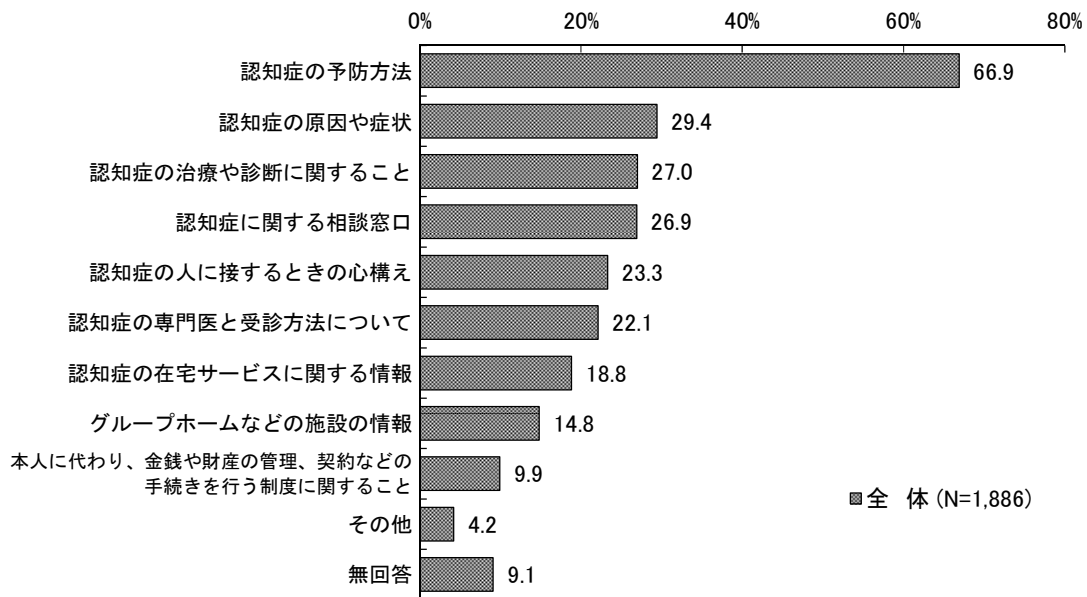
(4) 認知症 (問 23・問 24・問 26)

- ◇認知症の不安は、「ない」が74.5%、「ある」が22.7%となっている。
- ◇認知症に関して知りたい内容は、「認知症の予防方法」が66.9%で最も高く、次いで「認知症の原因や症状」が29.4%、「認知症の治療や診断に関すること」が27.0%となっている。
- ◇「福岡市は認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるまち」であるかどうかは、「そう思う」が48.4%、「そう思わない」が33.5%となっている。

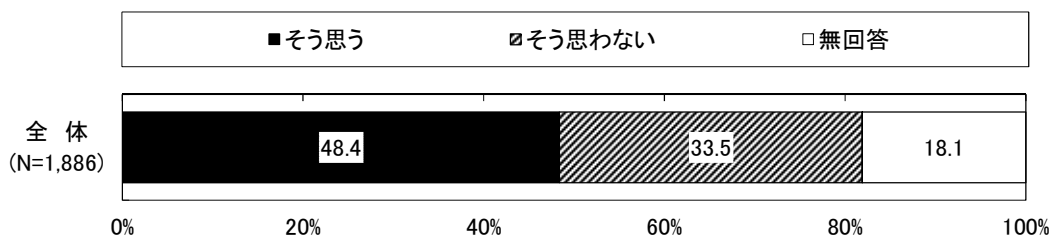
【認知症の不安の有無】



【認知症に関して知りたい内容】



【「福岡市は認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるまち」であるということの認否】



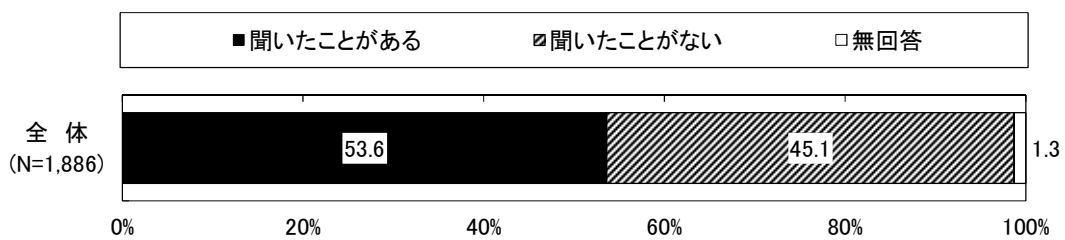
### 3. 医療・福祉

#### (1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）（問 27・問 28）

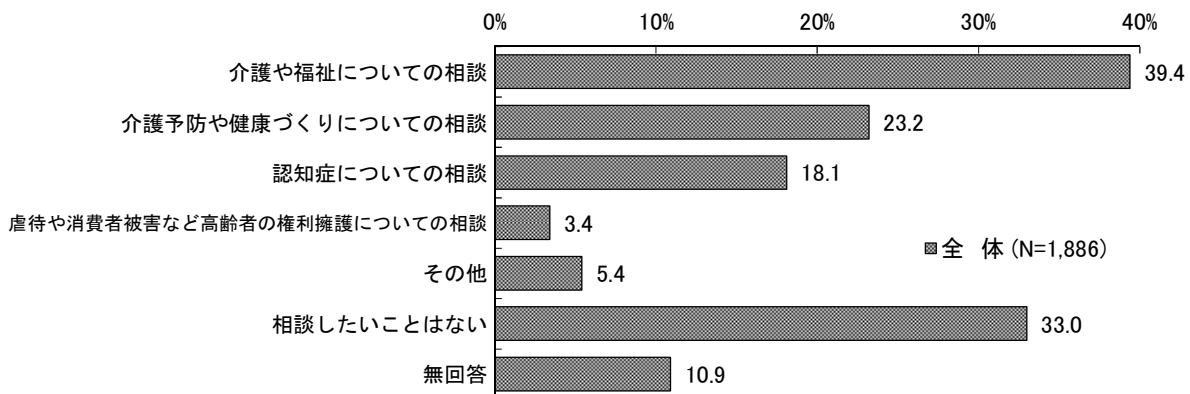
◇いきいきセンターふくおかを「聞いたことがある」が 53.6%、「聞いたことがない」が 45.1% となっている。

◇いきいきセンターふくおかに相談したい内容は、「介護や福祉についての相談」が 39.4%で最も高く、次いで「介護予防や健康づくりについての相談」が 23.2%、「認知症についての相談」が 18.1%となっている。また「相談したいことはない」は 33.0%となっている。

【「いきいきセンターふくおか」の認知度】



【「いきいきセンターふくおか」に相談したい内容】

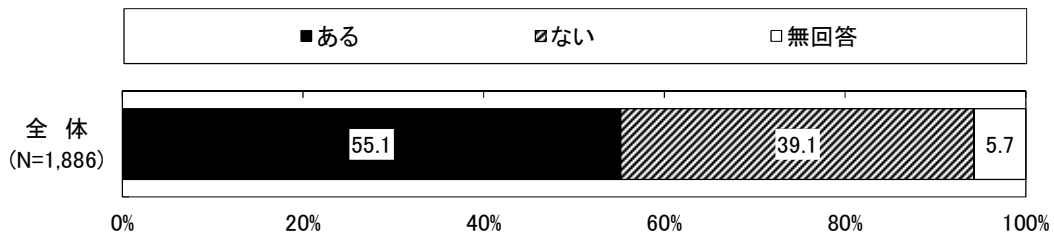




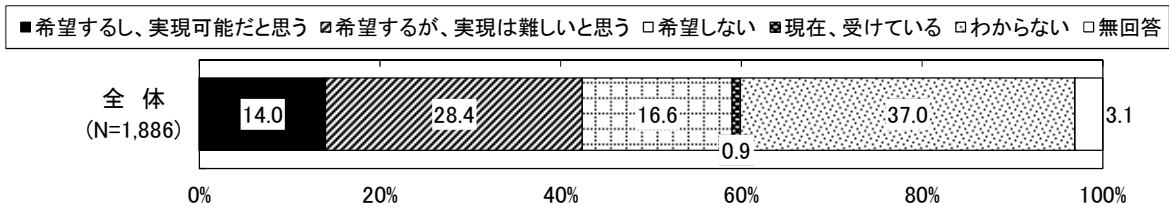
(2) 在宅医療（問29・問30・問32・問32-1・問33）

◇かかりつけ医の有無は、「いる」が79.2%、「いない」が18.8%となっている。  
 ◇在宅医療への関心は、「ある」が55.1%、「ない」が39.1%となっている。  
 ◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が42.4%、「希望しない」が16.6%となっている。  
 ◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が48.1%で最も高く、次いで「介護してくれる家族がないから」が14.3%となっている。  
 ◇最後を迎えたい場所は、「医療機関」が30.7%で最も高く、次いで「自宅（親族の家を含む）」が26.8%となっている。

【在宅医療への関心の有無】

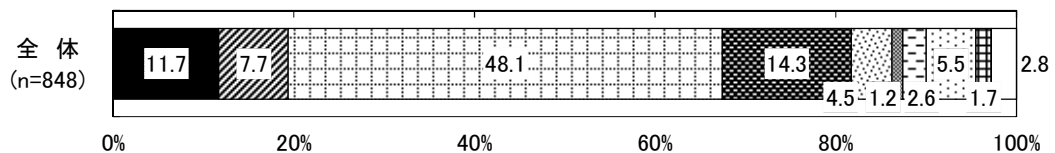


【在宅医療の希望・実現可能性】

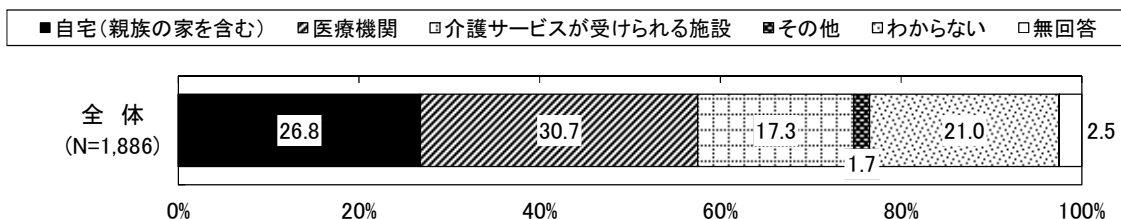


【在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】

- 住診などをしてくれる医師がいないから
- 家族に負担をかけるから
- 急に病状が変わったときの対応が不安だから
- 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
- その他
- 訪問看護や介護の体制が不十分だから
- 介護してくれる家族がないから
- 医師や看護師の訪問が精神的負担になるから
- 経済的に負担が大きいから
- 無回答



【最期を迎えたい場所】

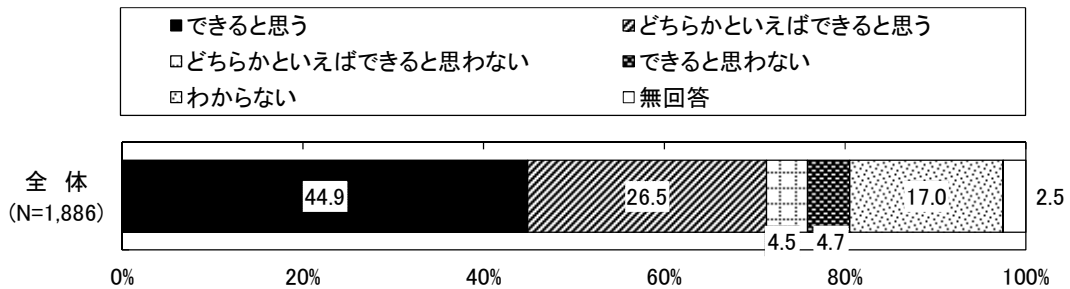


(3) 今後の介護意向 (問 34・問 35)

◇これから年齢を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うかどうかは、「できると思う」が 44.9%、「どちらかといえばできると思う」が 26.5%で、これらを合わせた『できると思う』が 71.4%となっている。

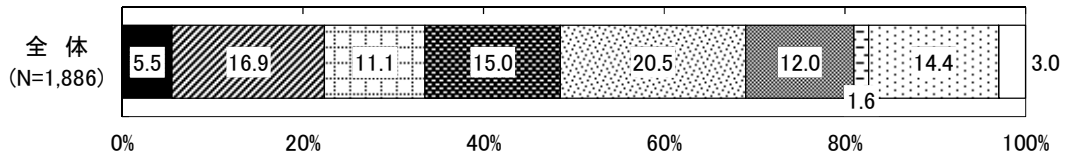
◇介護が必要になったときは、「在宅（自宅や家族の家）で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」が 5.5%、「在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」が 16.9%、「在宅（自宅や家族の家）で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」が 11.1%、「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅（自宅や家族の家）で生活したい」が 15.0%で、これらを合わせた『在宅で生活したい』が 48.5%となっている。

【住み慣れた地域で暮らし続けることができることについての認否】



【今後の介護の受け方（本人）】

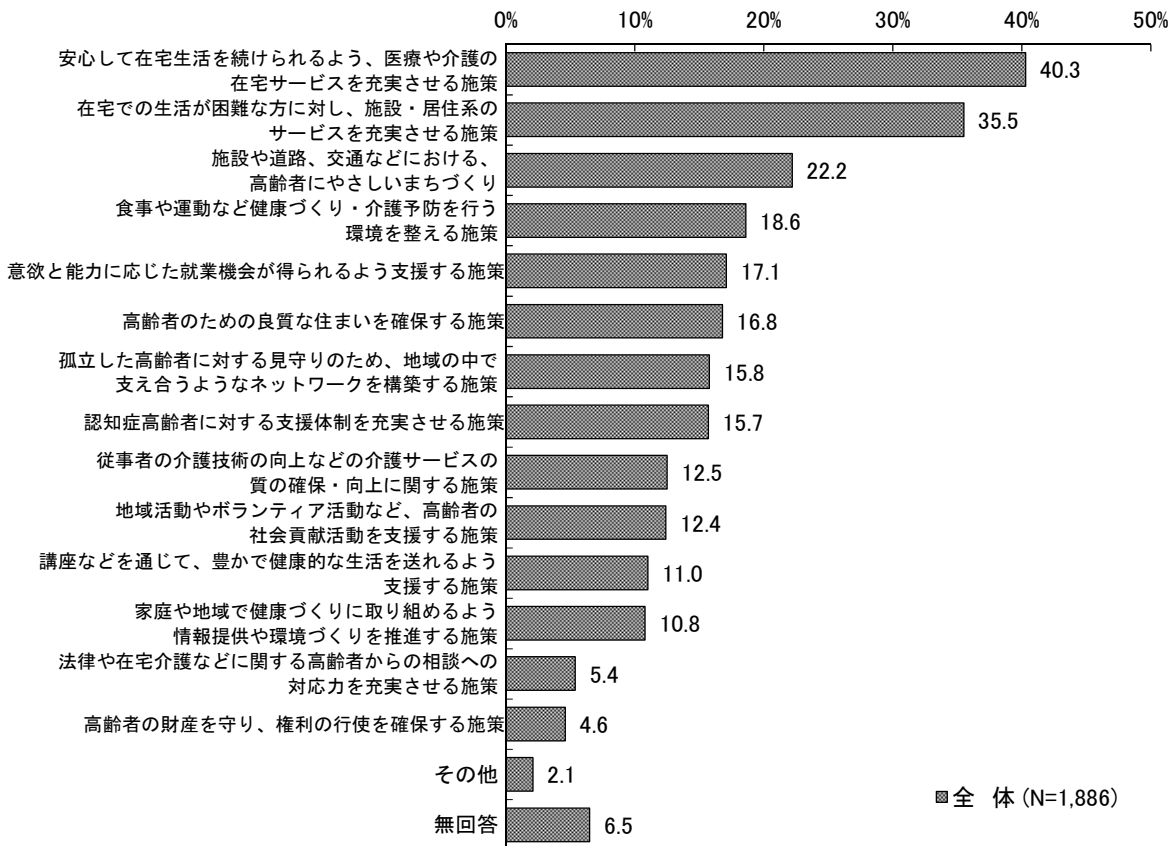
- 在宅（自宅や家族の家）で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい
- ▣在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅（自宅や家族の家）で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅（自宅や家族の家）で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもいいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



(4) 行政への要望 (問36)

◇行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容は、「安心して在宅生活を続けられるよう、医療や介護の在宅サービスを充実させる施策」が40.3%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難な方に対し、施設・居住系のサービスを充実させる施策」が35.5%、「施設や道路、交通などにおける、高齢者にやさしいまちづくり」が22.2%となっている。

【行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容】





## 第4章 介護サービス調査共通設問

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」「施設等サービス利用者調査」の3つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

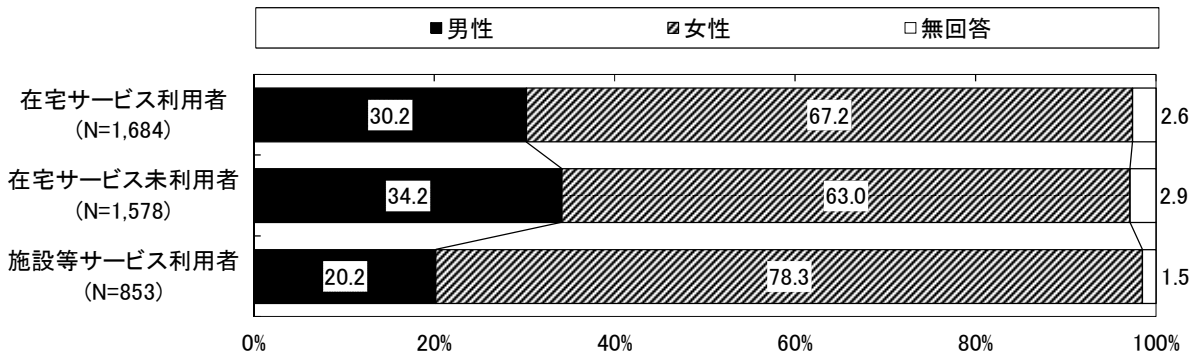
### 1. 回答者の属性

(1) 性別・年齢（利用者：問2・問3、未利用者：問2・問3、施設：問2・問3）

◇回答者の性別は、「男性」が在宅サービス利用者で30.2%、在宅サービス未利用者で34.2%、施設等サービス利用者で20.2%、「女性」が在宅サービス利用者で67.2%、在宅サービス未利用者で63.0%、施設等サービス利用者で78.3%となっている。

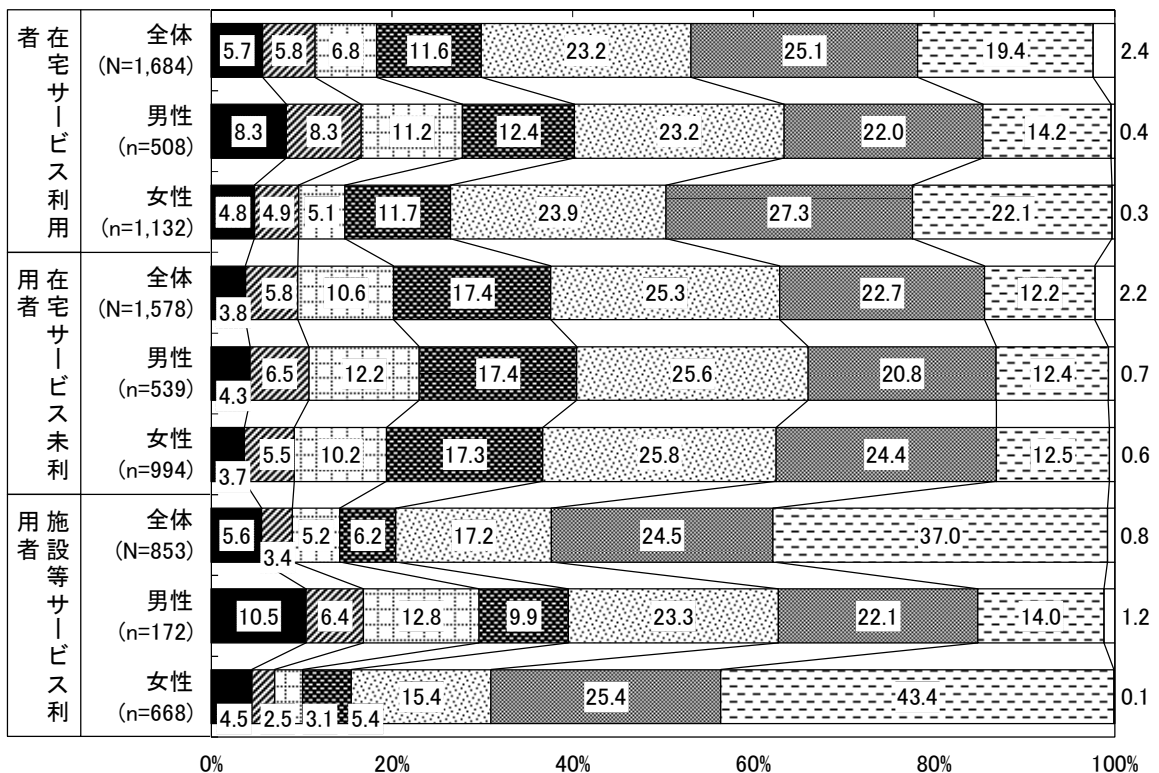
◇75歳以上の後期高齢者の割合は、在宅サービス利用者で79.3%、在宅サービス未利用者で77.6%、施設等サービス利用者で84.9%となっている。

【性別】



【年齢（性別）】

■40～64歳 ■65～69歳 □70～74歳 ■75～79歳 □80～84歳 ■85～89歳 □90歳以上 □無回答

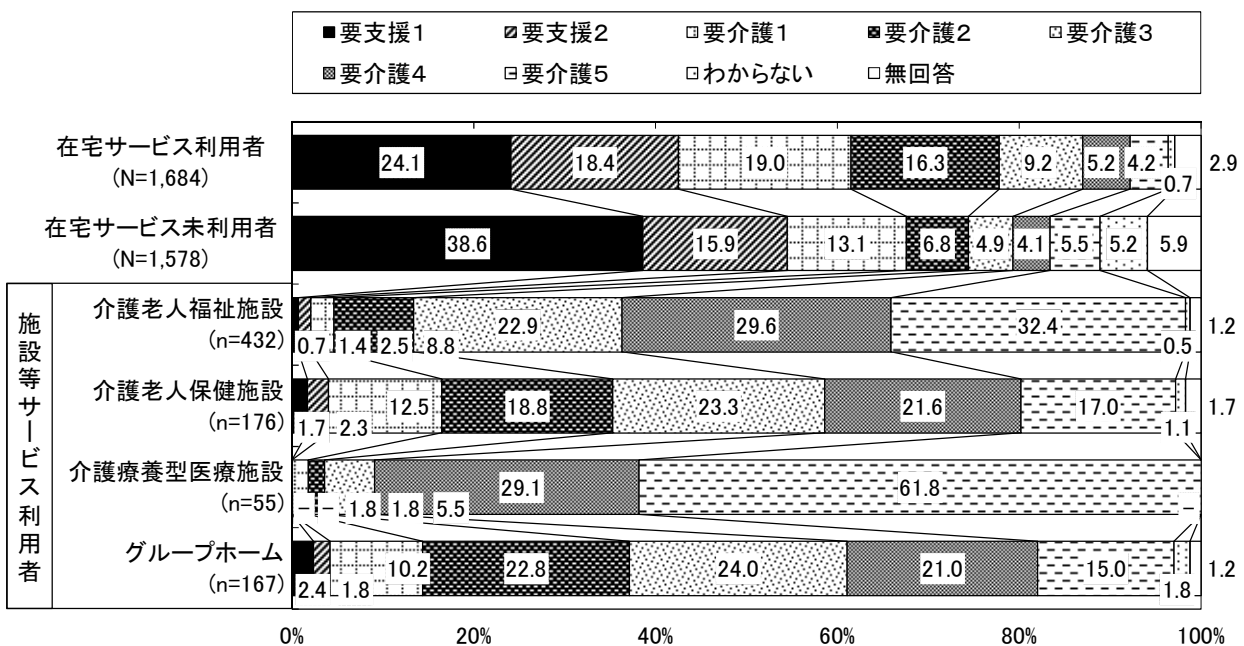


(2) 要介護度 (利用者：問 7、未利用者：問 7、施設：問 4)

◇回答者の要介護度は、在宅サービス利用者と在宅サービス未利用者ともに要介護度が軽い人が多く、「要支援1」「要支援2」「要介護1」を合わせた『要介護1以下』が在宅サービス利用者で61.5%、在宅サービス未利用者で67.6%となっている。

◇施設等サービス利用者では要介護度が重い人が多く、「要介護3」「要介護4」「要介護5」を合わせた『要介護3以上』が介護老人福祉施設では84.9%、介護療養型医療施設では96.4%となっている。一方で介護老人保健施設では61.9%、グループホームでは60.0%となっていて、介護老人福祉施設・介護療養型医療施設に比べて回答者の要介護度が低くなっている。

【要介護度】



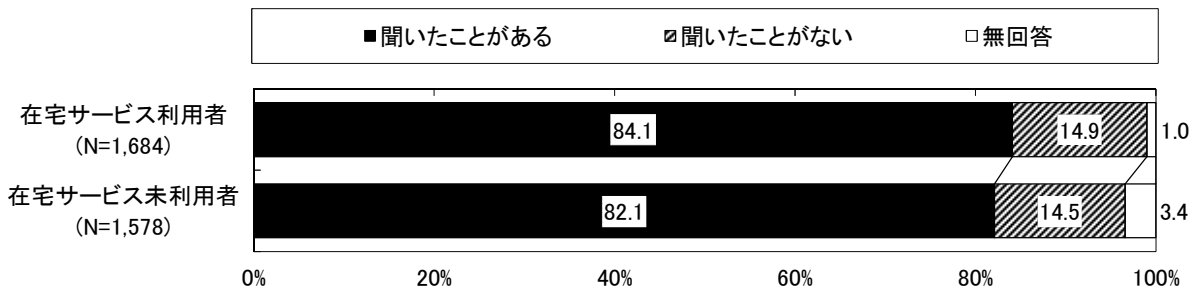
2. いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）

（利用者：問 15・問 16、未利用者：問 18・問 19）

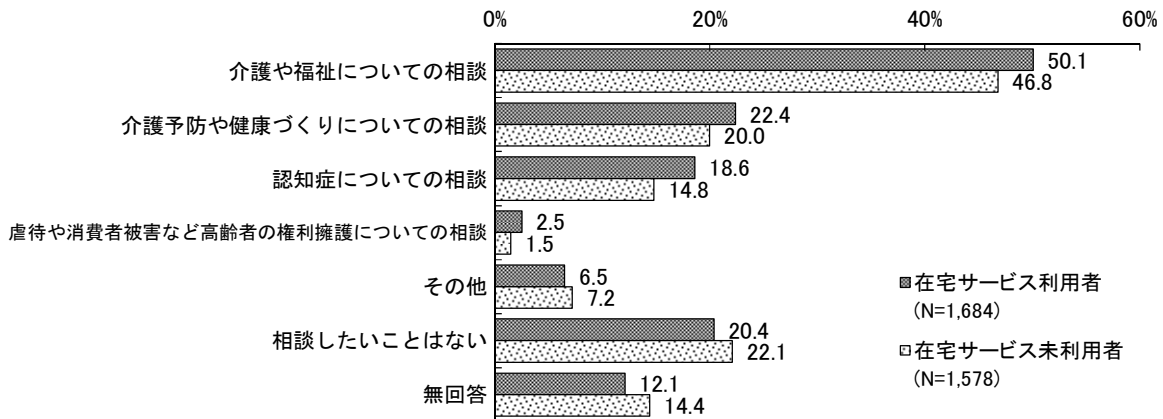
◇いきいきセンターふくおかを「聞いたことがある」が在宅サービス利用者で 84.1%、在宅サービス未利用者で 82.1%となっている。

◇いきいきセンターふくおかに相談したい内容は、「介護や福祉についての相談」が在宅サービス利用者で 50.1%、在宅サービス未利用者で 46.8%とともに最も高く、次いで「介護予防や健康づくりについての相談」が在宅サービス利用者で 22.4%、在宅サービス未利用者で 20.0%となっている。また「相談したいことはない」は在宅サービス利用者で 20.4%、在宅サービス未利用者で 22.1%となっている。

【「いきいきセンターふくおか」の認知度】



【「いきいきセンターふくおか」に相談したい内容】



3. 在宅医療（利用者：問 21・問 22・問 24・問 24-1・問 26、未利用者：問 26・問 27・問 29・問 29-1・問 30）

◇かかりつけ医の有無は、「いる」が在宅サービス利用者で 93.8%、在宅サービス未利用者で 89.9%となっている。

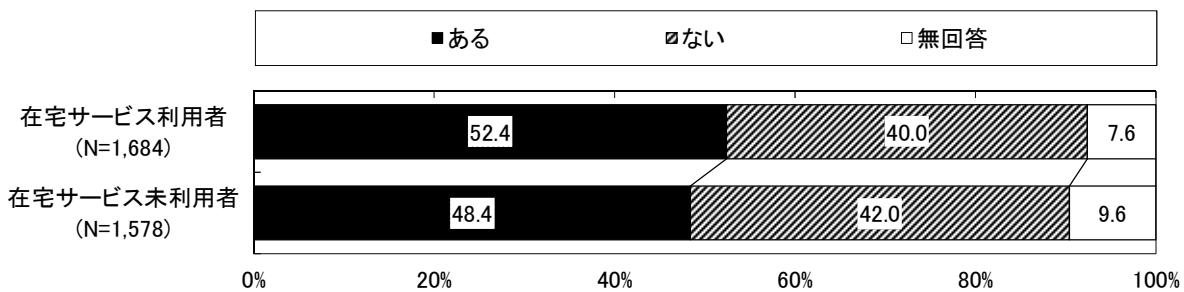
◇在宅医療の関心は、「ある」が在宅サービス利用者で 52.4%、在宅サービス未利用者で 48.4%となっている。

◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が在宅サービス利用者で 42.7%、在宅サービス未利用者で 37.7%となっていて、「希望しない」が在宅サービス利用者で 17.7%、在宅サービス未利用者で 15.5%となっている。

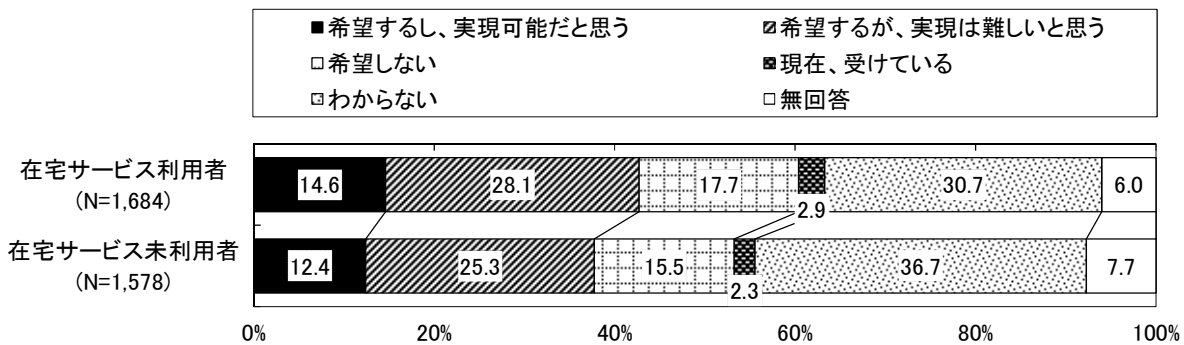
◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が在宅サービス利用者で 35.3%、在宅サービス未利用者で 29.9%とそれぞれ最も高く、次いで在宅サービス利用者で「介護してくれる家族がないから」が 15.8%、在宅サービス未利用者で「往診などをしてくれる医師がないから」が 14.3%となっている。

◇最後を迎えたい場所は、「医療機関」が在宅サービス利用者で 31.4%、在宅サービス未利用者で 36.3%とそれぞれ最も高く、次いで「自宅（親族の家尾を含む）」が在宅サービス利用者で 26.8%、在宅サービス未利用者で 26.1%となっている。

【在宅医療への関心の有無】



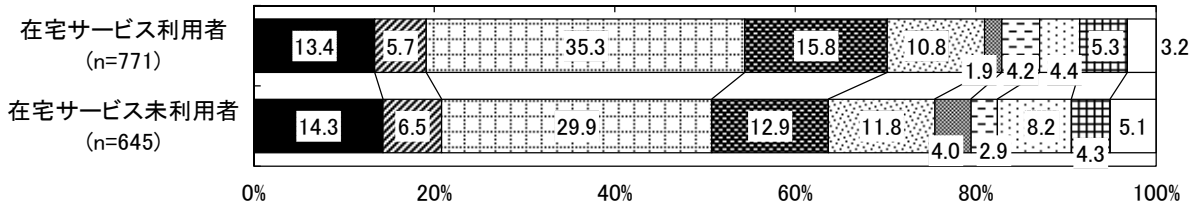
【在宅医療の希望・実現可能性】





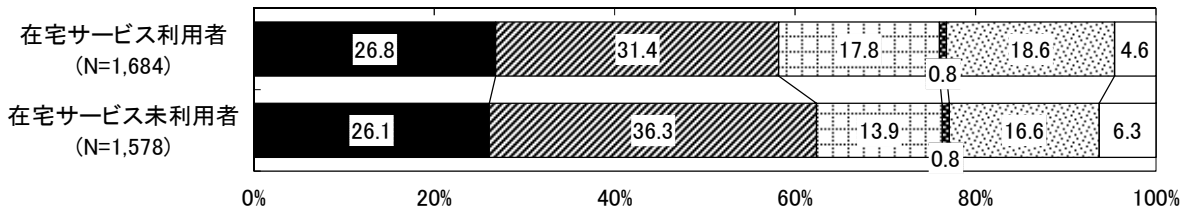
【在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】

- 往診などをしてくれる医師がいないから
- 家族に負担をかけるから
- 急に病状が変わったときの対応が不安だから
- 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
- その他
- ▣ 訪問看護や介護の体制が不十分だから
- ▣ 介護してくれる家族がいないから
- ▣ 医師や看護師の訪問が精神的負担になるから
- 経済的に負担が大きいため
- 無回答



【最期を迎えたい場所】

- 自宅(親族の家を含む)
- 介護サービスが受けられる施設
- わからない
- ▣ 医療機関
- ▣ その他
- 無回答



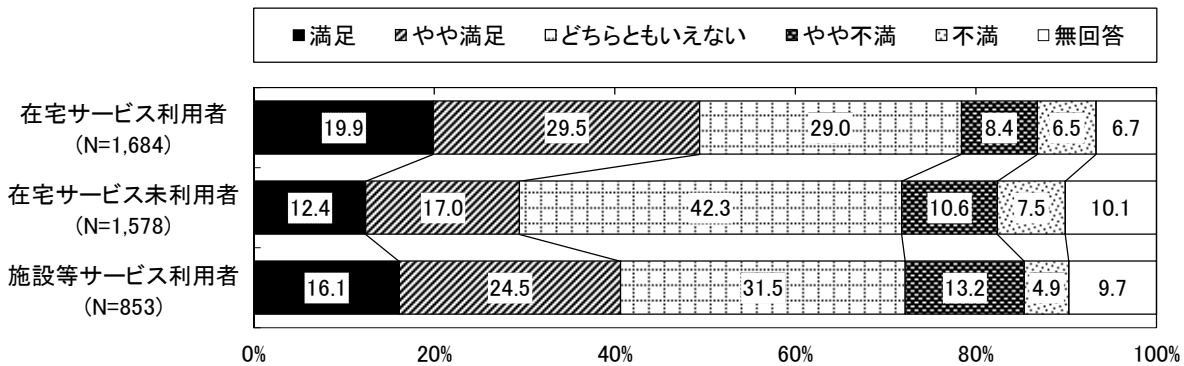
#### 4. 介護保険制度

(利用者：問 30・問 31、未利用者：問 31・問 32、施設：問 22・問 23)

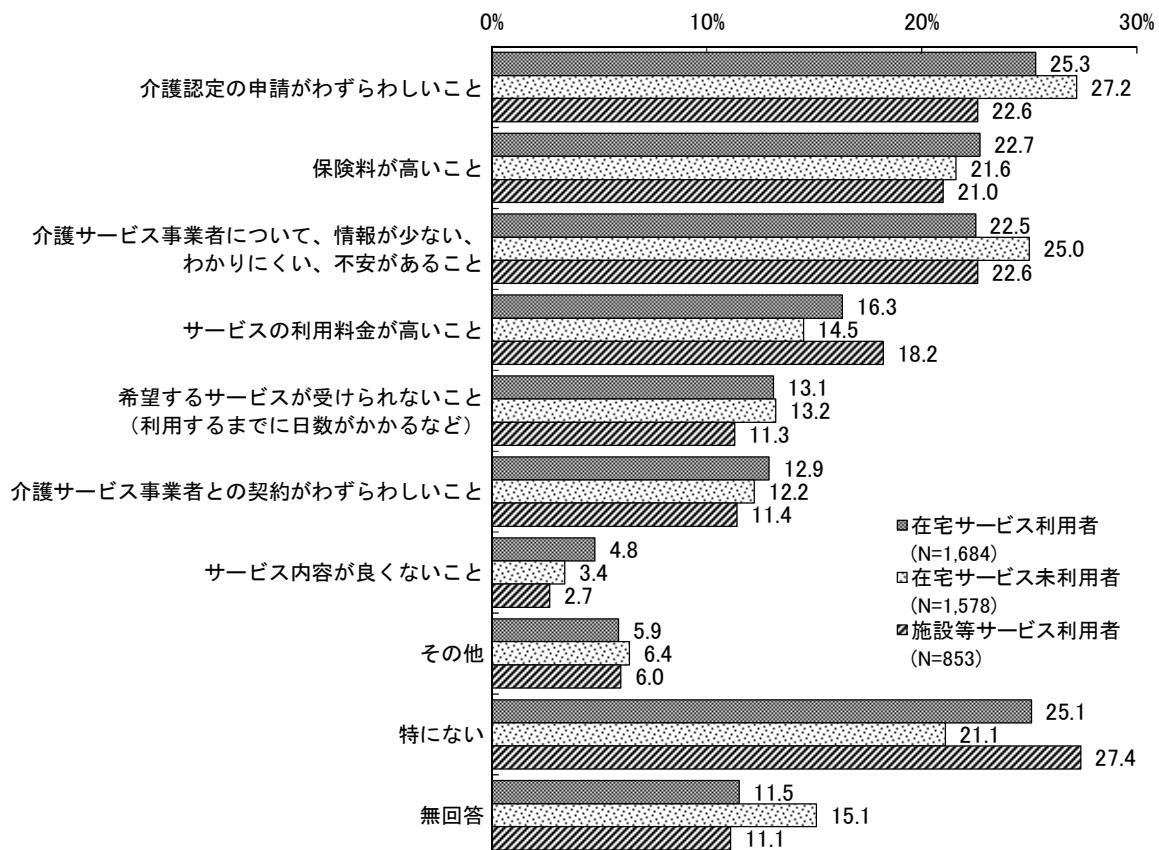
◇介護保険制度全体の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が在宅サービス利用者で 49.4%、在宅サービス未利用者で 29.4%、施設等サービス利用者で 40.6%となっている。

◇介護保険制度で不満に思うことは、在宅サービス利用者、在宅サービス未利用者、施設等サービス利用者のすべてで「介護認定の申請がわずらわしいこと」が最も高くなっている。施設等サービス利用者では「介護サービス事業者について、情報が少ないこと、分かりにくい、不安があること」も同じく最も高くなっている。

【介護保険制度全体の満足度】



【介護保険制度で不満に思うこと】



### 5. 介護者

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」の2調査において、主に介護をしている方の状況も回答してもらった。

#### (1) 介護者の属性

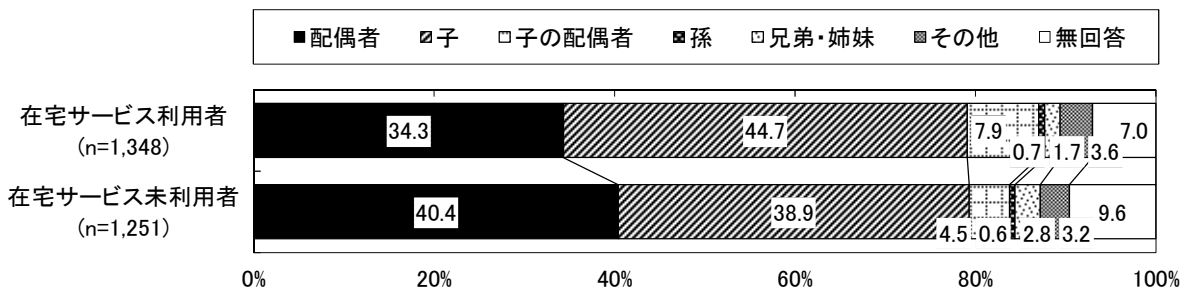
(利用者：問37・問38・問39・問40、未利用者：問38・問39・問40・問41)

◇主な介護者の続柄は、在宅サービス利用者では「子」が44.7%、在宅サービス未利用者では「配偶者」が40.4%と最も高くなっている。

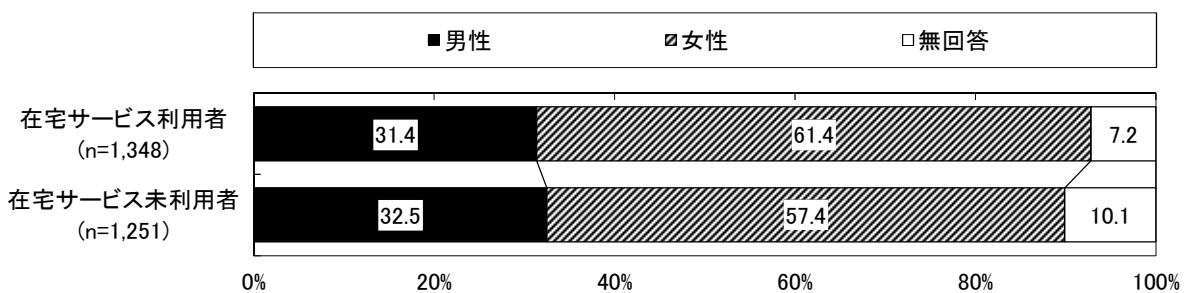
◇主な介護者の同居状況は、「同居」が在宅サービス利用者では66.2%、在宅サービス未利用者では67.1%と高くなっている。

◇主な介護者の年齢は、『60代以上』が在宅サービス利用者では65.2%、在宅サービス未利用者では62.0%となっていて、ともに6割を超えている。

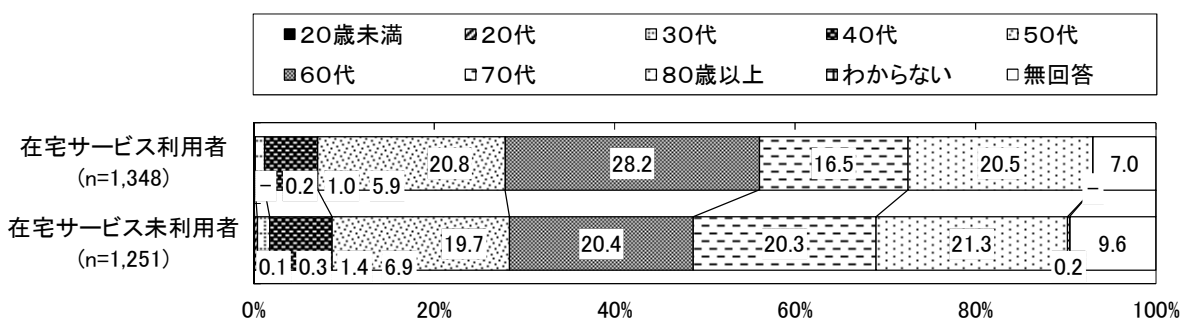
【主な介護者の続柄】



【主な介護者の性別】



【主な介護者の年齢】



(2) 介護者の就業

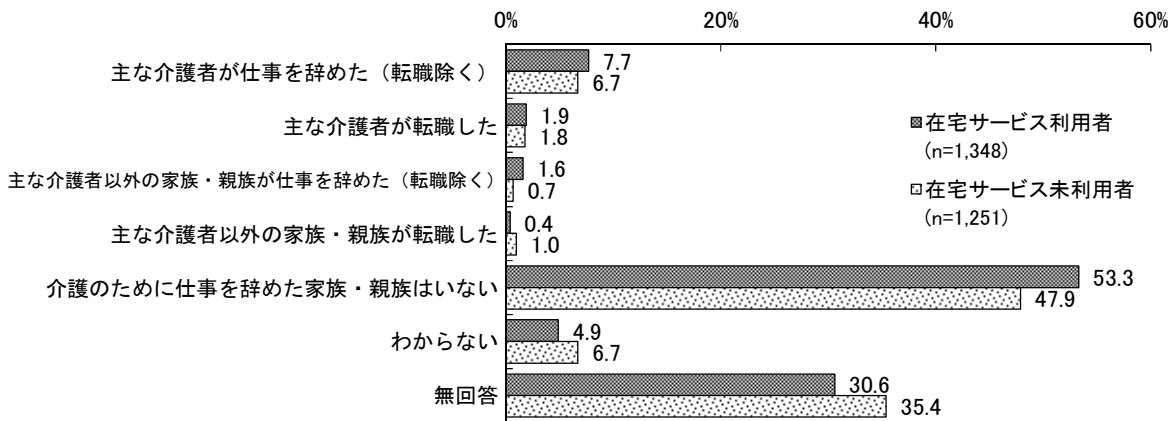
(利用者：問 41・問 42・問 42-3、未利用者：問 42・問 43・問 43-3)

◇介護離職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が在宅サービス利用者で 53.3%、在宅サービス未利用者で 47.9%となっている。

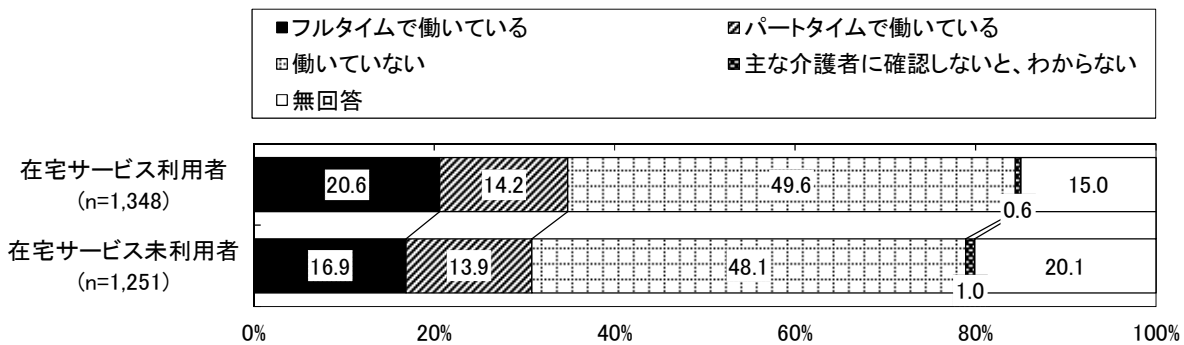
◇主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』が、在宅サービス利用者で 34.8%、在宅サービス未利用者で 30.8%となっている。

◇主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が在宅サービス利用者で 48.3%、在宅サービス未利用者で 45.5%と、ともに最も高くなっている。

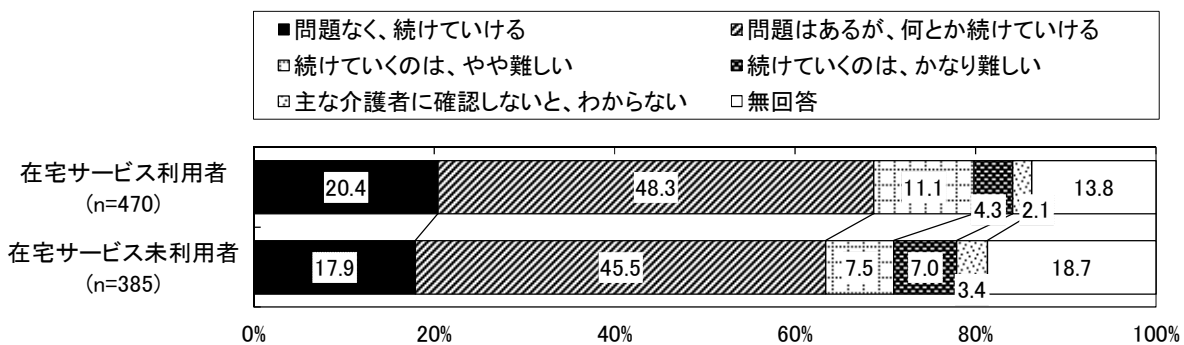
【介護離職の状況】



【主な介護者の勤務形態】



【主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性】



(3) 今後の介護の仕方

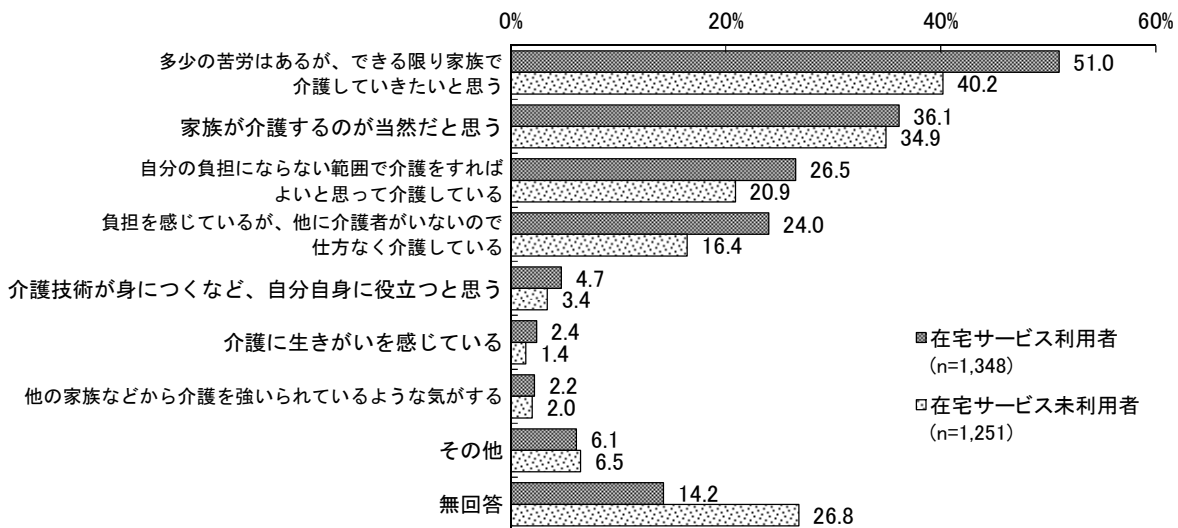
(利用者：問49・問51・問52、未利用者：問50・問51・問52)

◇介護する際の気持ちは、「多少の苦労はあるが、できる限り家族で介護していきたいと思う」が在宅サービス利用者で51.0%、在宅サービス未利用者で40.2%と、ともに最も高くなっている。

◇今後の介護の仕方としては、「在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい」が在宅サービス利用者で32.9%、在宅サービス未利用者で22.9%と、ともに最も高くなっている。

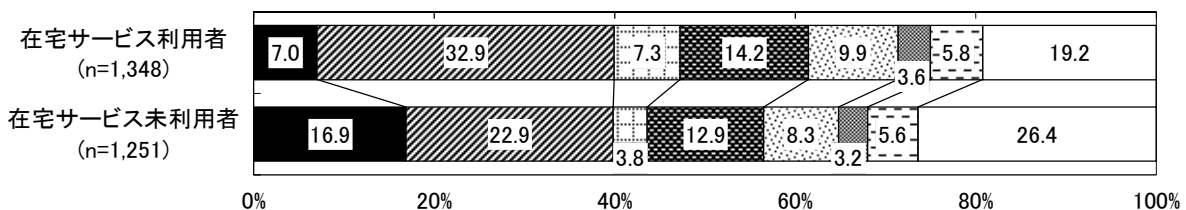
◇在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が在宅サービス利用者で39.7%、在宅サービス未利用者で35.9%と、ともに最も高くなっている。

【介護する際の気持ち】

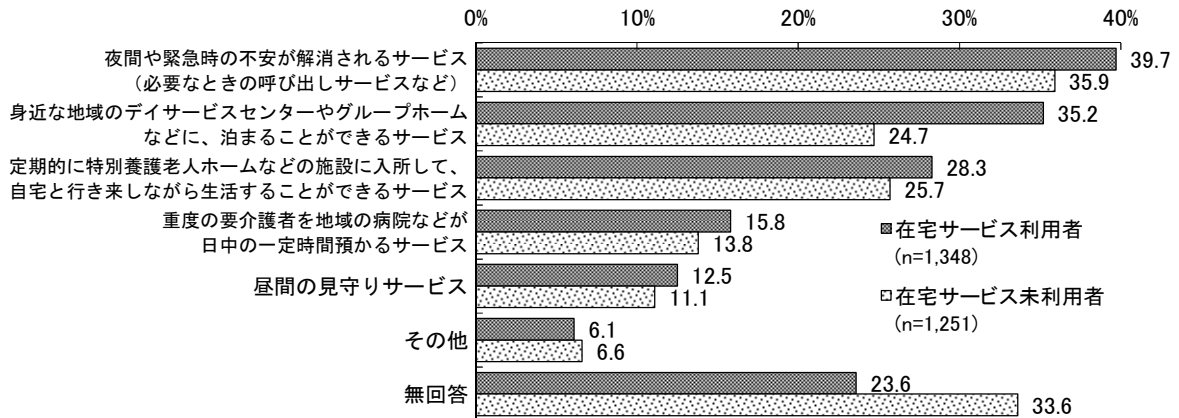


【今後の介護の仕方】

- 在宅（自宅や家族の家）で、できるかぎり家族だけで介護したい
- ▨ 在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい
- 在宅（自宅や家族の家）で、介護保険サービスを中心に介護したい
- 施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅（自宅や家族の家）で介護したい
- あて名の方ご本人（介護が必要な方）が住み慣れた地域の施設に入所させたい
- あて名の方ご本人（介護が必要な方）が住み慣れた地域でなくてもいいので施設に入所させたい
- その他
- 無回答



【在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容】



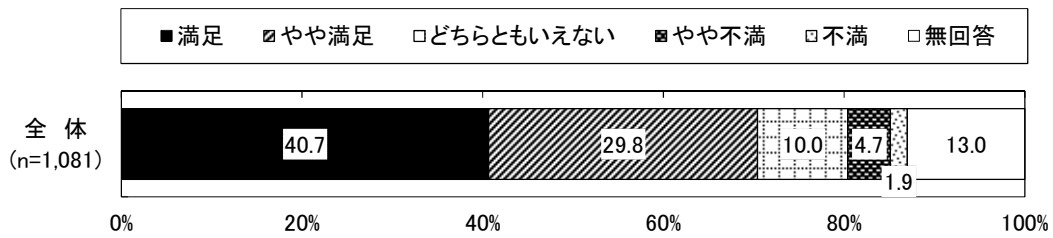
## 第5章 介護保険在宅サービス利用者調査

### 1. 介護保険サービスの利用

#### (1) 介護保険サービスの内容の満足度（問18-2）

◇現在利用している介護保険サービスの内容の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が70.5%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が6.6%となっている。

【介護保険サービスの内容の満足度】

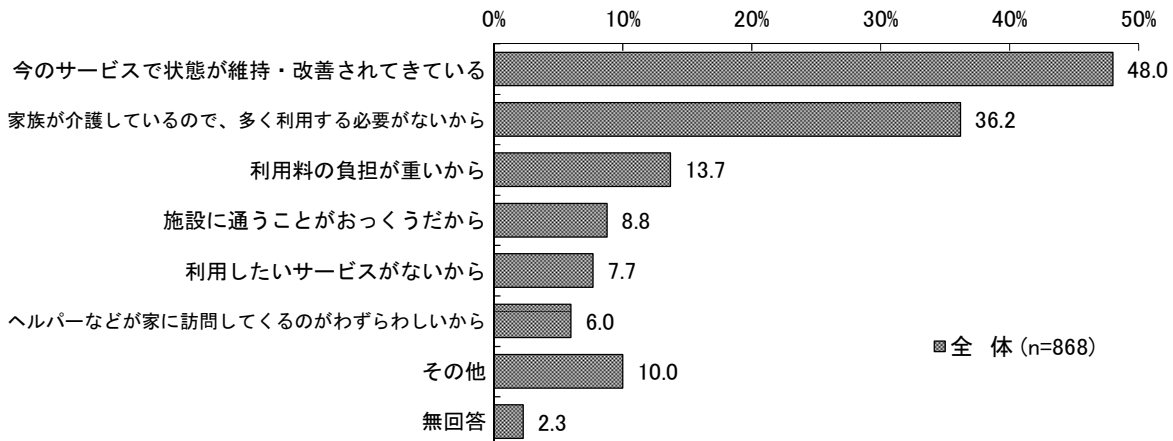


#### (2) 介護保険サービスの利用状況（問20・問20-1）

◇介護保険サービスの利用状況は、「(制度上利用できる)上限まで利用していない」が51.5%、「(制度上利用できる)上限まで利用した」は15.6%となっている。

◇上限まで利用していない理由としては「今のサービスで状態が維持・改善されてきている」が48.0%で最も高く、次いで「家族が介護しているので、多く利用する必要がないから」が36.2%、「利用料の負担が重いから」が13.7%となっている。

【利用額の上限まで利用していない理由】



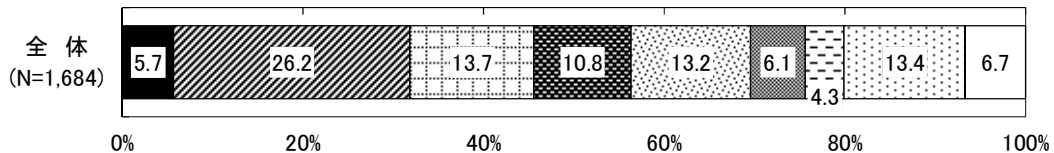
2. 今後どのように介護を受けたいか（問 25・問 27）

◇今後の介護の受け方は、「在宅（自宅や家族の家）で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」「在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」「在宅（自宅や家族の家）で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅（自宅や家族の家）で生活したい」を合わせた 56.4%が『在宅で生活したい』という意向を持っている。

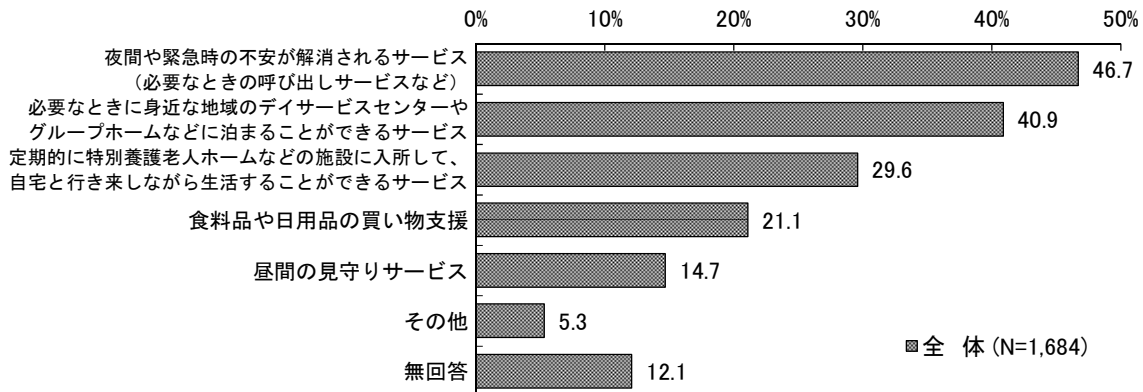
◇在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が 46.7%で最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることができるサービス」が 40.9%で続いている。

【今後の介護の受け方（本人）】

- 在宅（自宅や家族の家）で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい
- ▣ 在宅（自宅や家族の家）で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅（自宅や家族の家）で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅（自宅や家族の家）で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもいいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



【在宅生活で必要性が高いサービス】





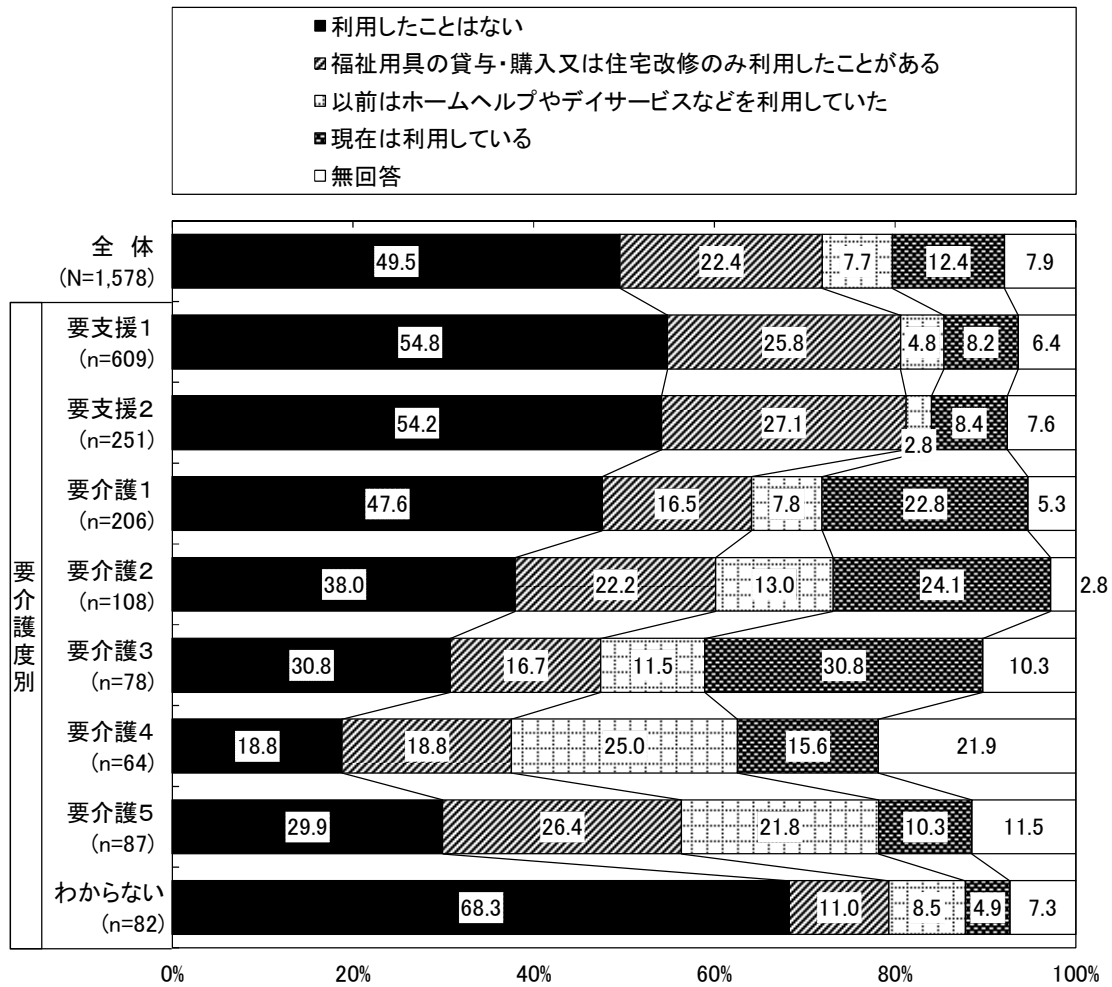
## 第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査

### 1. 介護保険サービスの利用

#### (1) 在宅サービスの利用経験（問20）

◇介護保険の在宅サービスの利用経験は、「利用したことはない」が49.5%となっていて、特に要支援1で54.8%、要支援2で54.2%となっている。

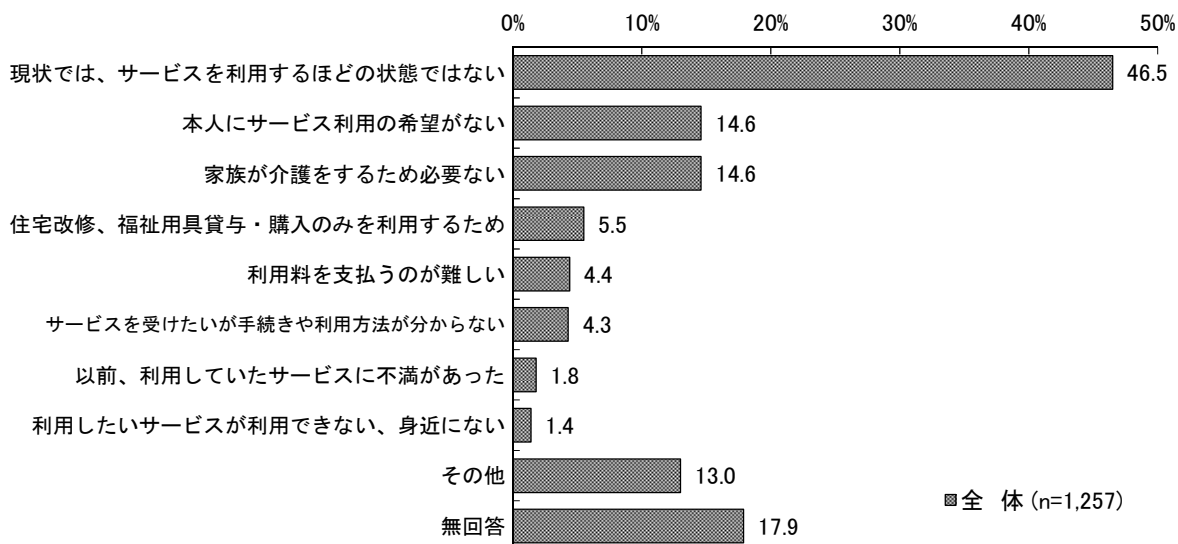
【介護保険の在宅サービスの利用経験】



(2) 在宅サービスを利用していない理由 (問 20-1)

◇在宅サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 46.5%で最も高く、次いで、「本人にサービスの希望がない」「家族が介護をするため必要ない」がともに 14.6%となっている。

【介護保険の在宅サービスを利用していない理由】



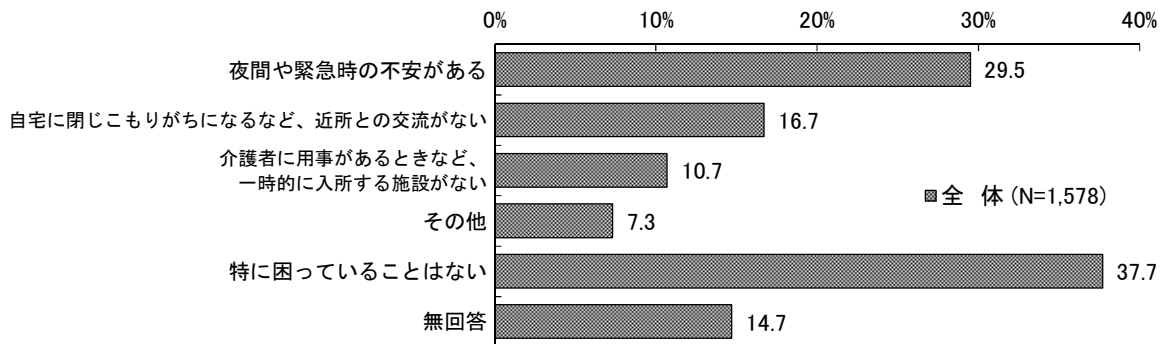
2. 今後の介護サービスの利用（問 21・問 22・問 23）

◇在宅で生活する上で困っていることは、「夜間や緊急時の不安がある」が29.5%で最も高く、次いで「自宅に閉じこもりがちになるほど、近所との交流がない」が16.7%となっている。

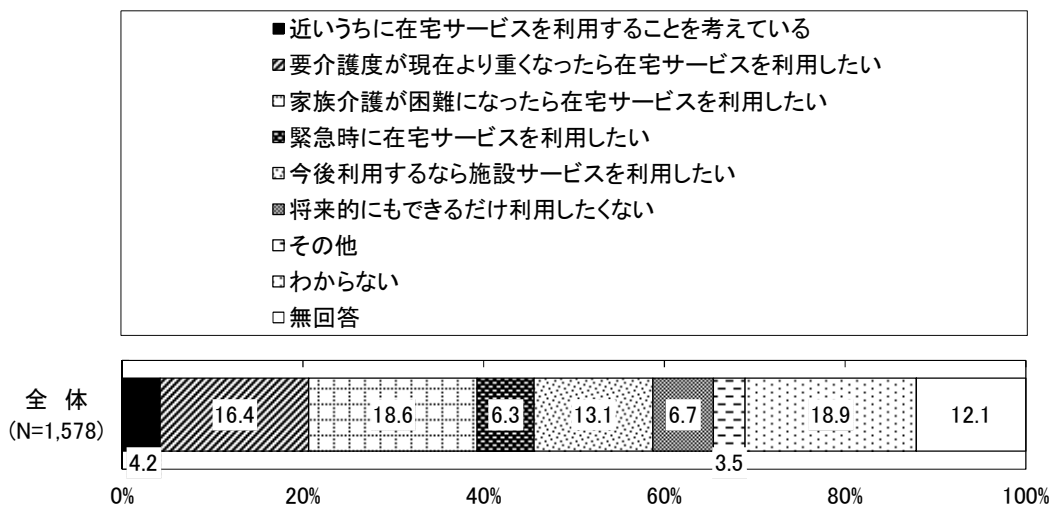
◇今後の介護サービスの利用意向は、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」が18.6%で最も高く、次いで「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」が16.4%、「今後利用するなら施設サービスを利用したい」が13.1%となっている。

◇今後利用したい在宅サービスの内容は、「通所介護（デイサービス）」が28.5%で最も高く、次いで「通所リハビリテーション（デイケア）」が22.7%、「福祉用具の貸与」が20.2%となっている。

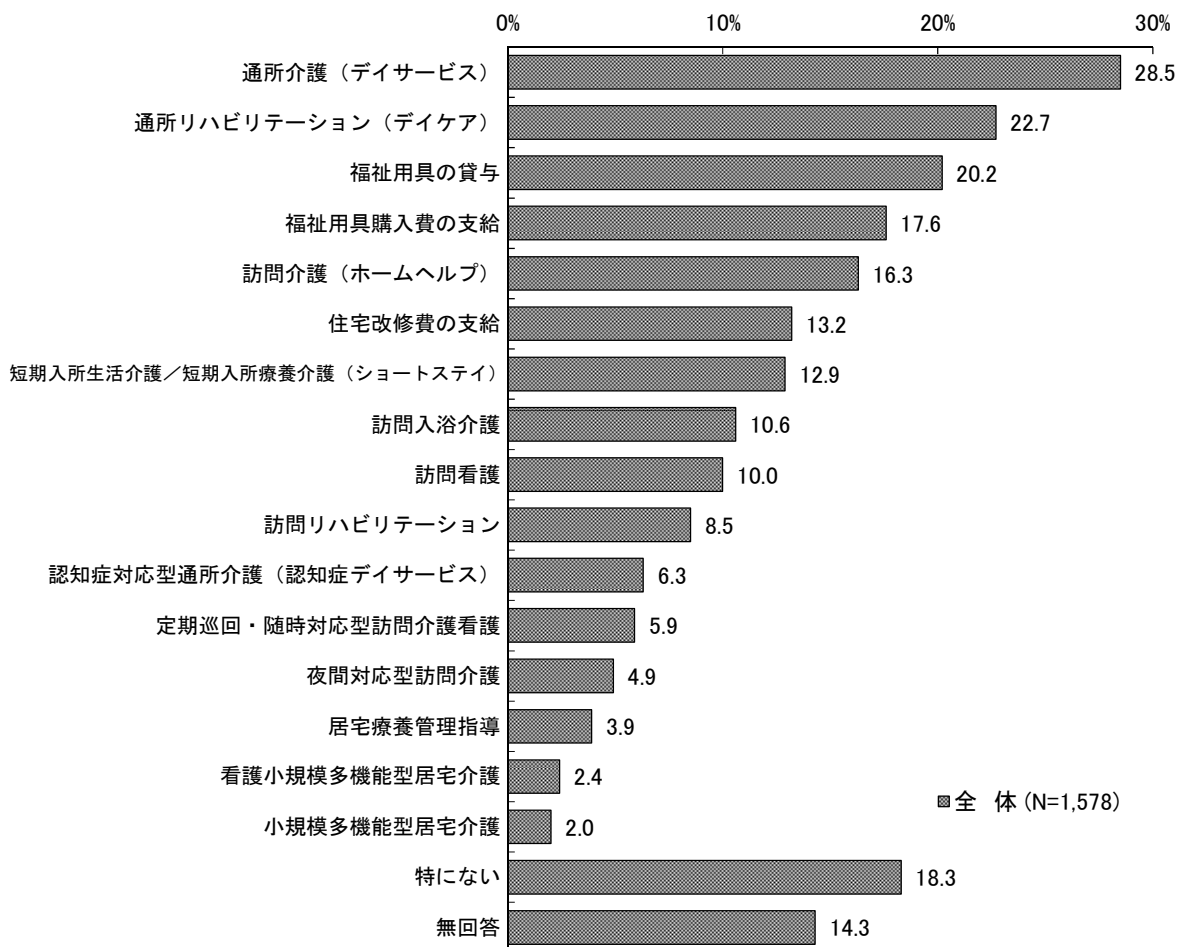
【在宅で生活する上で困っていること】



【今後の介護サービスの利用意向】



【今後利用したい介護保険の在宅サービスの内容】



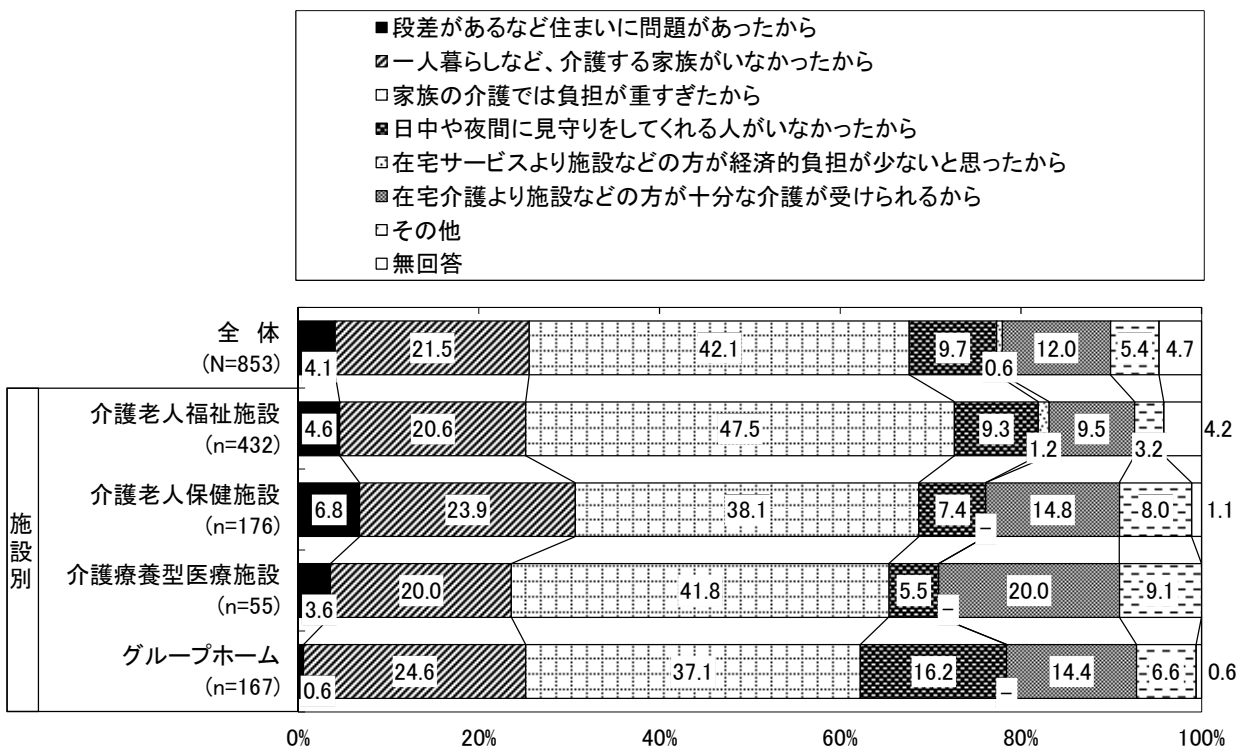
## 第7章 介護保険施設等サービス利用者調査

### 1. 施設等を希望した理由・現在の施設の満足度（問11・問21）

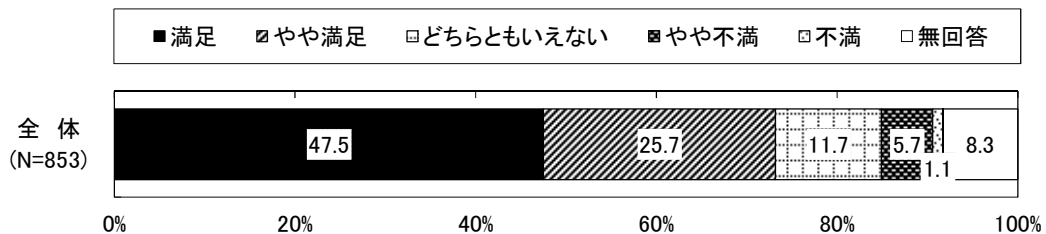
◇施設等を希望した理由は、「家族の介護では負担が重すぎたから」が42.1%で最も高くなっている。グループホームでは「日中や夜間に見守りをしてくれる人がいなかったから」が16.2%となっていて、他施設に比べて高くなっている。

◇現在の施設の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が73.2%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が6.8%となっている。

【施設等を希望した理由】

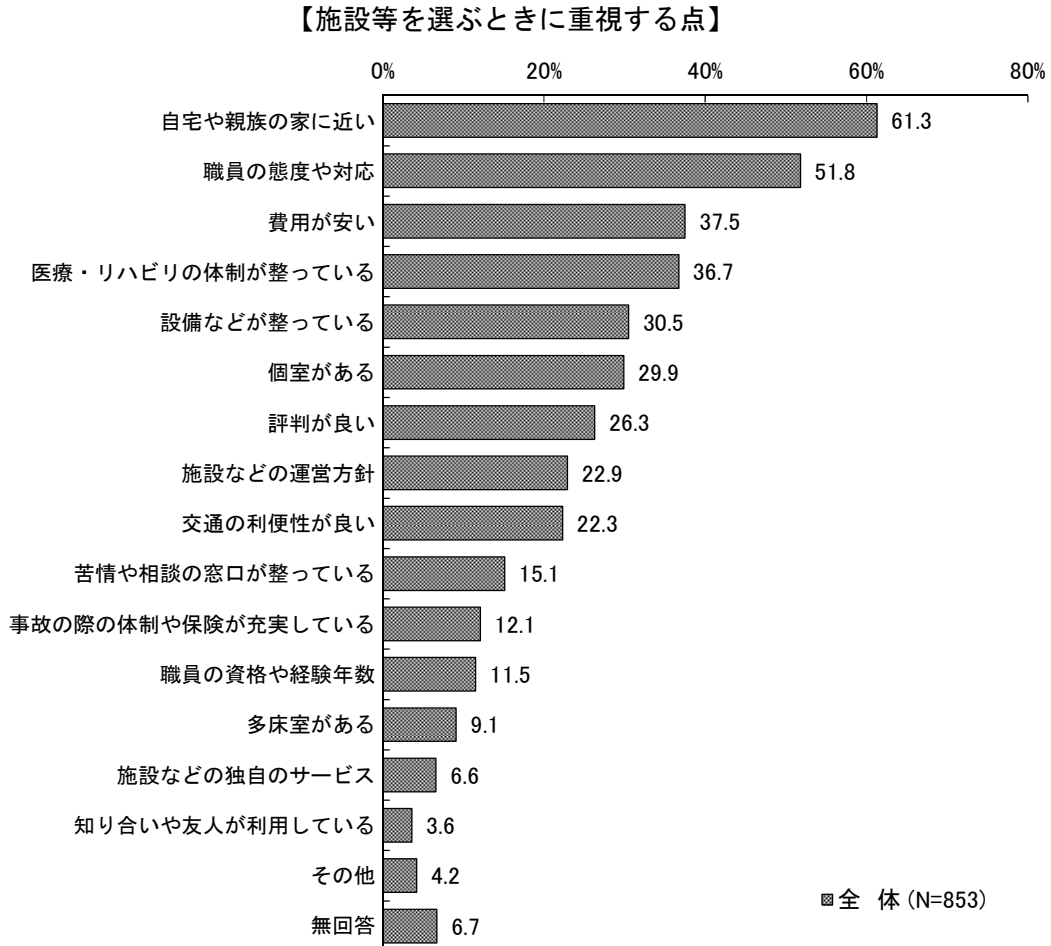


【現在の施設の満足度】



## 2. 施設等を選ぶときに重視する点（問 19）

◇施設等を選ぶときに重視する点は、「自宅や親族の家に近い」が61.3%で最も高く、次いで「職員の態度や対応」が51.8%、「費用が安い」が37.5%が続いている。

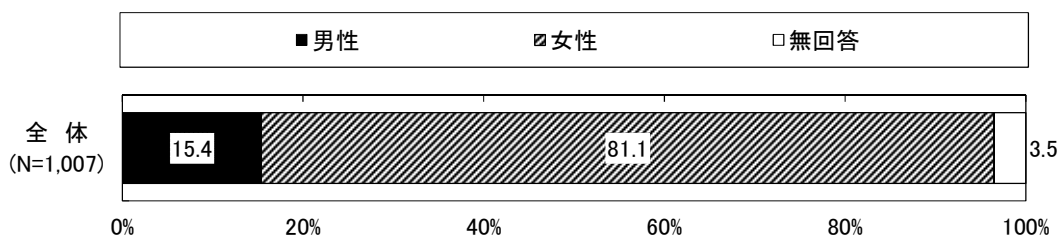


## 第8章 介護支援専門員調査

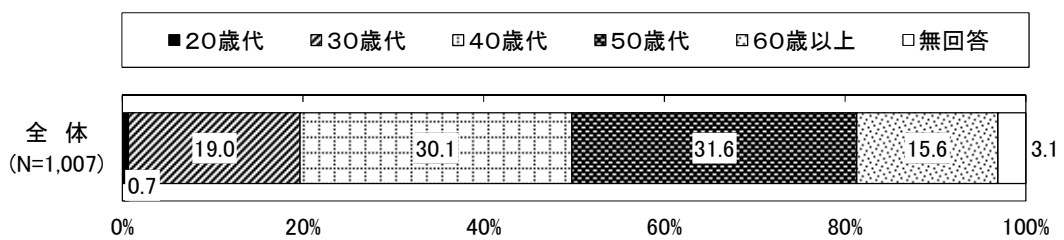
### 1. 回答者の属性（問1・問2・問3）

◇回答者の性別は、「男性」が15.4%、「女性」が81.1%となっている。  
 ◇年齢は、「50歳代」が31.6%で最も高く、次いで「40歳代」が30.1%、「30歳代」が19.0%となっている。  
 ◇介護支援専門員の経験年数は、「6年以上」が49.7%で最も高く、次いで「3年以上6年未満」が21.0%、「1年以上2年未満」が10.3%となっている。

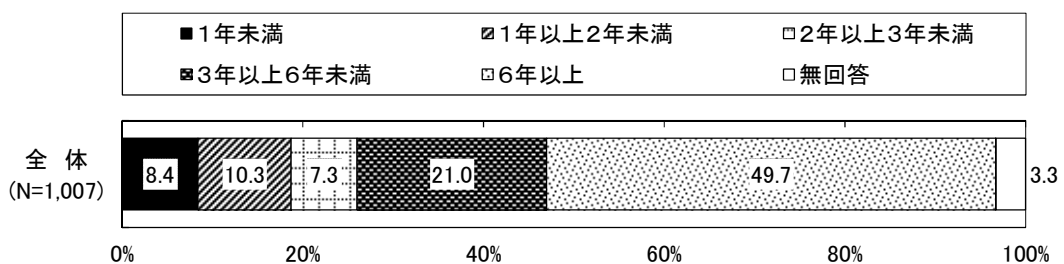
【性別】



【年齢】



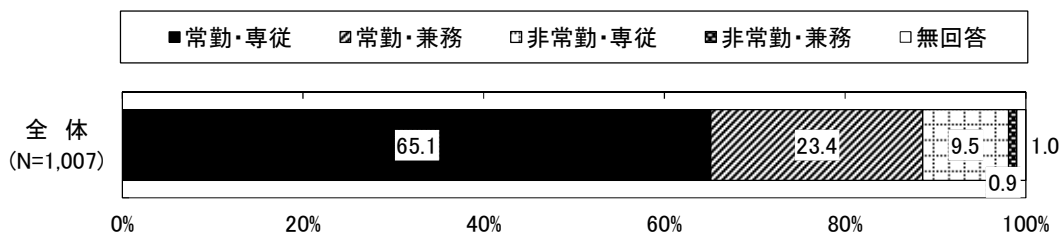
【介護支援専門員の経験年数】



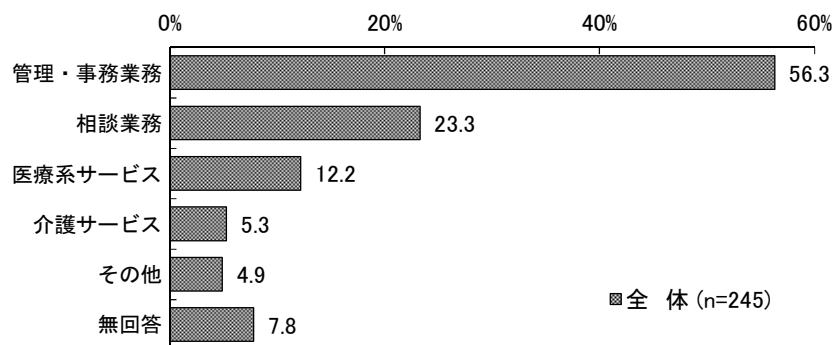
## 2. 勤務形態・兼務内容（問 6・問 6-1）

◇勤務形態は、「常勤・専従」と「常勤・兼務」を合わせた『常勤』が88.5%となっている。  
 ◇兼務している人の業務内容は、「管理・事務業務」が56.3%で最も高く、次いで「相談業務」が23.3%となっている。

【勤務形態】



【兼務している業務】



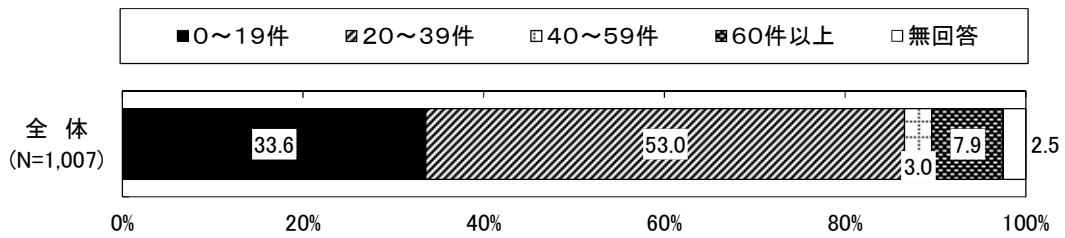


### 3. ケアマネジメント

#### (1) 給付管理件数 (問9)

◇平成28年10月に行った給付管理件数は、「20～39件」が53.0%と半数を占めている。  
 ◇平成28年10月の介護支援専門員一人あたりの給付管理件数は26.3件となっている。なお、平成25年10月の一人あたりの給付管理件数は27.3件となっている。

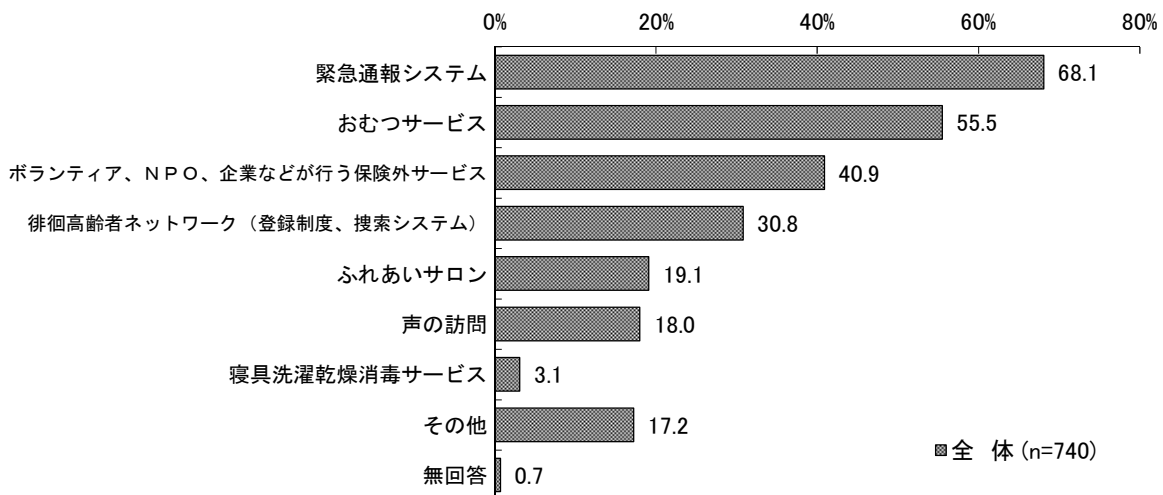
【給付管理件数】



#### (2) 組み合わせた保険外サービス (問10-1)

◇ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類は、「緊急通報システム」が68.1%で最も高く、次いで「おむつサービス」が55.5%、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が40.9%となっている。

【ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類】

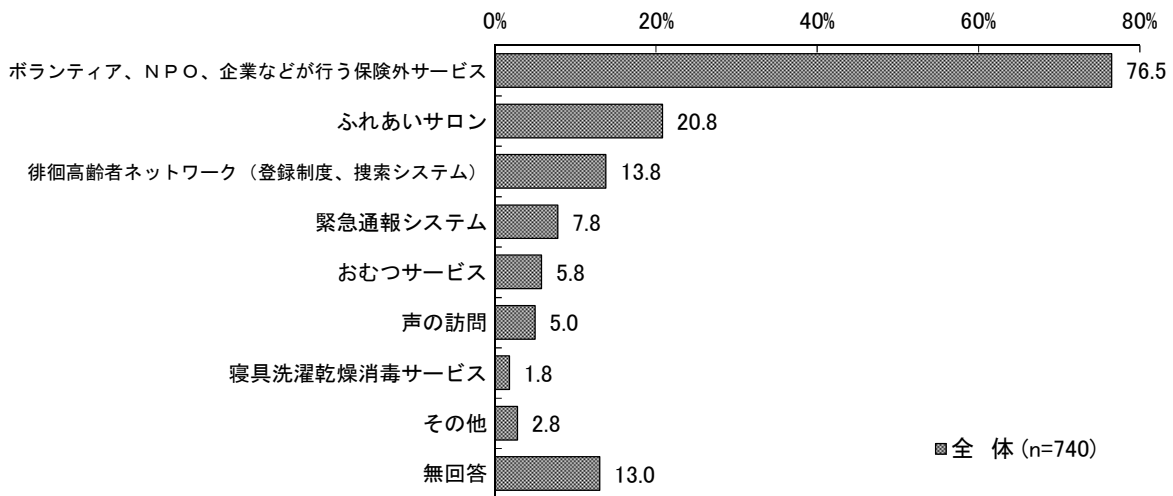


(3) 今後充実が必要なサービス (問 10-3・問 10-4)

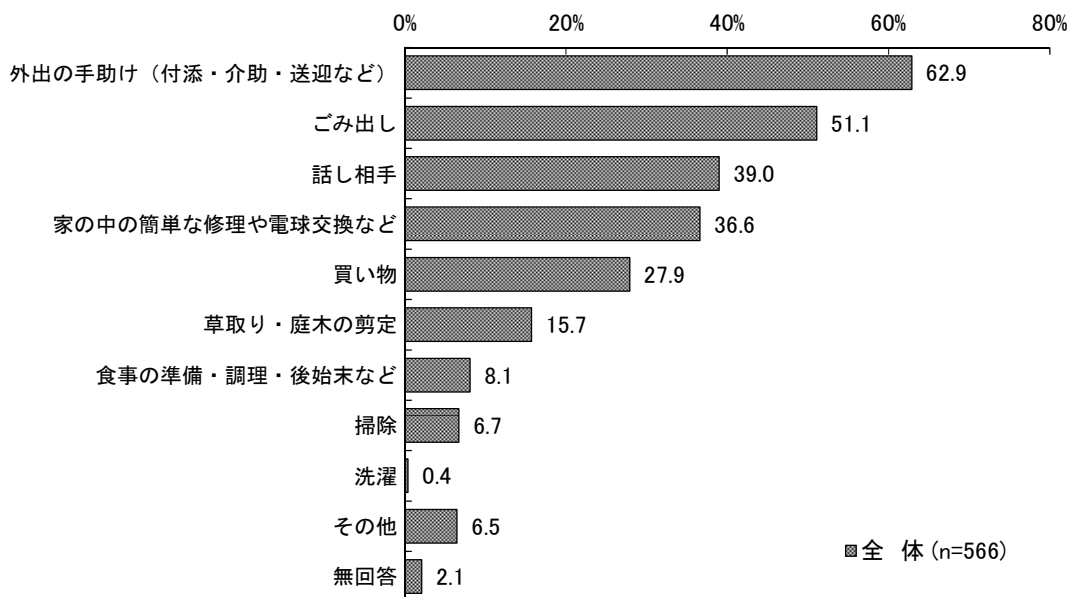
◇今後充実が必要な保険外サービスの種類は、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が76.5%で最も高く、次いで「ふれあいサロン」が20.8%となっている。

◇ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービスとして今後充実が必要なサービスの具体的な内容は、「外出の手助け（付添・介助・送迎など）」が62.9%で最も高く、次いで「ごみ出し」が51.1%、「話し相手」が39.0%となっている。

【今後充実が必要な保険外サービスの種類】



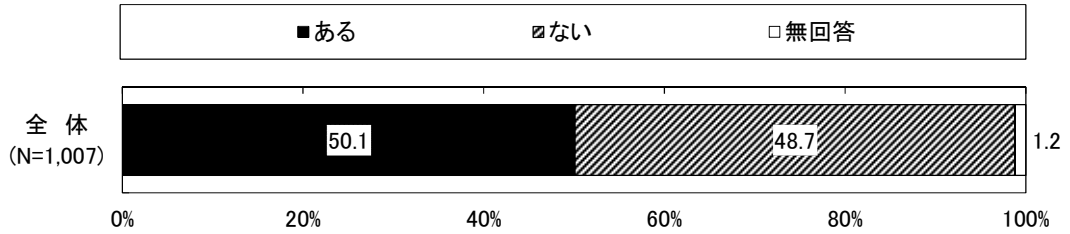
【ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービスで今後充実が必要なサービスの内容】



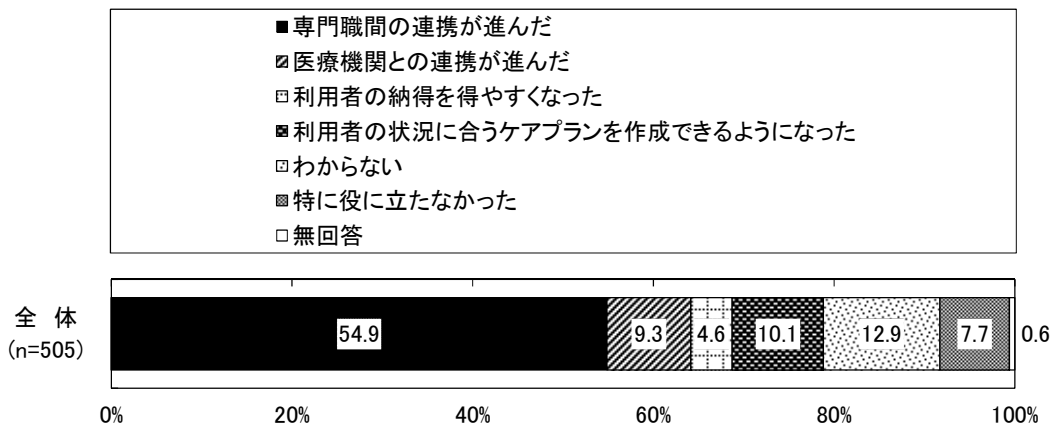
4. 地域ケア会議（問 30・問 30-1）

◇地域ケア会議への参加は、「ある」が50.1%、「ない」が48.7%となっている。  
 ◇地域ケア会議に参加した効果としては、「専門職間の連携が進んだ」が54.9%で最も高く、次いで「利用者の状況に合うケアプランを作成できるようになった」が10.1%となっている。

【地域ケア会議への参加】

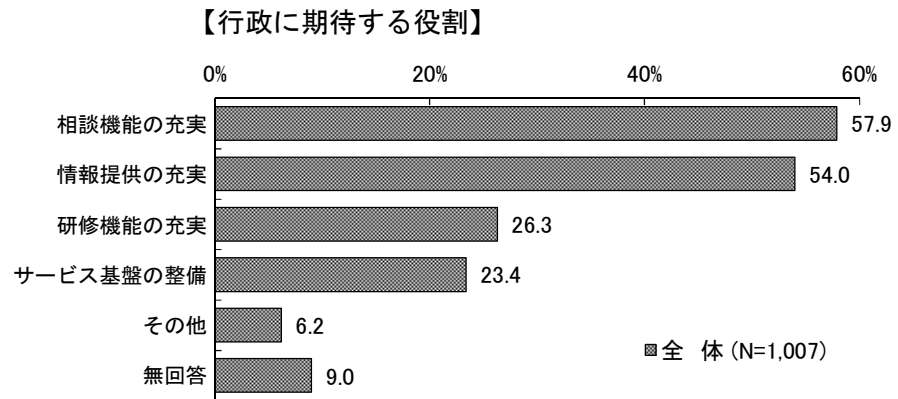


【地域ケア会議の効果】



### 5. 行政に期待する役割（問 37）

◇行政に期待する役割は、「相談機能の充実」が 57.9%で最も高く、次いで「情報提供の充実」が 54.0%、「研修機能の充実」が 26.3%となっている。



平成 28 年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

平成 29 年 3 月

---

発 行 福岡市

企 画 福岡市 保健福祉局 高齢社会部 介護福祉課

〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号

電 話 (092) 733-5452

FAX (092) 733-5587

---